

令和6年度 第2回 大田区基本計画懇談会専門部会(基本目標4)議事録

日時	令和6年11月8日(金)14時から17時
場所	区役所本庁舎11階 第5・6委員会室
委員	○ 中西 正彦 ○ 松山 知規 ○ 三木 伸良 ○ 永井 隆 欠 大橋 たけし ○ えびさわ 圭介 ※○:出席、欠:欠席
傍聴者	3名
議事	1 部会長挨拶 2 議題 (1)修正した施策内容について (2)主要事業について 3 今後の予定
資料	資料1 第2回懇談会等を踏まえた施策内容の修正について 資料2 実施計画書(基本目標④) 資料3 今後の予定 参考1 施策内容におけるその他の修正について 参考2 懇談会委員意見一覧 参考3 施策別検討シート(基本目標④) 参考4 基本目標④のコンセプト(案)

開会

◎齋藤部長

それでは定刻になりましたので、ただいまから大田区基本計画懇談会、基本目標④の第2回専門部会を開催させていただきます。委員の皆様におかれましては、ご多忙の中ご出席を賜りまして誠にありがとうございます。

本日は事務局として、私、大田区企画経営部長の齋藤が総合司会を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

この会議は親会と同じように、ペーパーレスの観点から事務局資料は机上には配付せず、お手元のタブレットやモニターに投影する形で進めさせていただきたいと考えてございます。それからタブレット操作等に不備が生じた際には、手を挙げていただいて、お近くの職員にお声がけをいただければ幸いです。

なお、会議の様子を撮影・録音させていただき、後日議事録を公開するとともに、区の公式YouTubeチャンネル、こちらで動画として公開させていただきます。この点もあわせてご了承ください。

それから8月に第1回の、この専門部会を開催したのですが、台風の影響で書面開催とさせていただきます。この点についてもあわせて、こういう状況でございますので、ご理解賜れば幸いです。

1 部会長挨拶

◎齋藤部長

それでは開会にあたりまして、中西部会長からご挨拶を賜りたいと存じます。よろしくお願いいたします。

◎中西部会長

最初にご挨拶させていただきます。皆様どうもありがとうございます。会長を仰せつかっております中西です。

今ご紹介がありましたとおり、第1回が書面ということで、こういう形で集まるのが初めてではありますが、今日議論をして、それで今回最終回ということだと思いますので、ほぼ最初で最後になりますが闊達な意見交換ができればと思いますのでよろしくお願いします。

一方で論点が多いので3時間とってあって大変かなとは思いますが、論点の多さはどうしても時間につながってしまいますので、その辺はご容赦いただければと思います。ただ早く終わる分には構わないというふうになっておりますので、議論がスムーズに進めば、そういうふうにもしたいと思いますが、いずれにせよ、たくさんの、一方でスムーズな意見交換をさせていただきたくよろしくお願いいたします。

◎齋藤部長

中西部会長ありがとうございました。それでは以降の進行を部会長、よろしくお願いします。

◎中西部会長

それでは早速ですが私のほうで進行させていただきます。それではこの専門部会の成立について事務局から報告をお願いします。

◎須田課長

お世話になっております、企画調整担当課長の須田でございます。本日の専門部会の成立につきましてご報告をいたします。

専門部会の成立要件につきましては、大田区基本計画懇談会条例施行規則第3条第5項において、「部会は、部員の半数以上の出席がなければ、会議を開くことができない。」と規定されております。

本日の出席状況でございますが、委員6名のうち、事前に欠席のご連絡をいただいている大橋委員を除く5名の方に出席いただいております、定足数を満たしているため、本会議が成立していることを報告いたします。以上です。

◎中西部長

ありがとうございます。ただいまの報告をもちまして本専門部会が成立していることについて確認したということにいたします。

2 議題

◎中西部会長

それでは早速、議題1「修正した施策内容について」と、それから議題2「主要事業について」、事務局から一括で資料のご説明をお願いします。

◎須田課長

事務局から資料の説明をいたします。

資料の内容が多くございますので、約15分程度お時間をいただければと考えております。資料は大きく2つに分かれておりまして、前半が施策部分の修正、後半で個別の主要事業についてご説明をいたします。

(1)修正した施策内容について

まず、資料1、施策の部分で修正した内容でございます。

4-2ソフト防災に関する施策でございます。「日頃の見守りや、近所の助け合い」が重要とのご意見を踏まえまして、めざす姿①に「隣近所の協力や助け合いによって地域力が高まり」という文言を追記いたしました。

続いて4-6インフラ整備に関する施策でございます。「おおたユニバーサルデザインのまちづくり基本方針」の考え方を取り入れる検討が必要とのご意見を踏まえまして、施策の方向性①に「ユニバーサルデザインのまちづくりの視点を踏まえ」という文言を追記いたしました。

続いて4-8公園に関する施策でございます。「こどもと公園を結び付けた指標があったほうがよい」とのご意見を受けまして、こちらにつきましては今後の行政評価の中で、こどもと公園を紐づける指標の活用を検討することといたしました。

その他、表現の整理や、指標の最新値を取得したことによる目標値の修正など、比較的軽微な修正につきましては、参考資料1に一覧でお示ししておりますので、必要に応じてごらんいただければと存じます。

施策の部分の修正は以上でございます。続いて、事業でございます。

(2) 主要事業について

基本目標4では、31の主要事業がございます。この主要事業としている事業につきましては、その他の事業と比較しまして特に重要で、区として着実に推進すべきと位置付ける事業でございます。実施計画の3年間でスケジュール化した上で、行政評価においてもその進捗や効果を評価検証してまいりたいと考えております。なお、事業費の部分につきましては、現在、予算編成を行っている最中でございますので空欄としております。

4-1から4-9まで、順次ご説明いたします。

4-1についてはハード防災に関する施策で、5つの主要事業がございます。

まず、「倒れないまちづくりの推進」につきまして、耐震診断・設計・改修工事の費用の一部助成等により、耐震化を促進する事業でございます。次に「燃えない・燃え広がらないまちづくりの推進」、こちらは、不燃化特区制度等を活用した除却・建替えに要する費用の一部助成や、道路拡幅整備等により、不燃化を促進する事業でございます。次に「橋梁の強靱化」でございます。こちらは橋梁の耐震性能の把握、耐震補強整備、架替えを進めていくものでございます。次に「無電柱化の推進」、こちらは名称のとおり、区道の無電柱化を計画に基づき推進していくという事業でございます。次に「水害から命を守る高台まちづくりの推進」、こちらは、今年度末に策定予定の「高台まちづくり基本方針」に基づき、活動欄に記載の「高台避難場所の確保」等について、短中期、長期の視点から、それぞれ取組を進めるものでございます。4-1は以上です。

続いて4-2ソフト防災に関する施策で、主要事業は4つでございます。

まず「関係機関との連携強化」、こちらは「実戦型の本部運営訓練」や、「訓練等の連携による実践、検証、改善のサイクルの確立」「緊急医療救護所等の開設、運営訓練」を実施していくものでございます。次に「防災意識の高揚と自ら避難行動等が判断できる環境づくり」でございます。こちらは、地域だけでは対応が難しい災害時の課題を取り入れた総合防災訓練の実施や、そこで得た成果や課題を、ほかの地域に共有していくという取組でございます。続いて「大規模災害発生時にも生活を継続できる体制の構築」でございます。こちらは、災害時物流体制を構築していくことや、災害廃棄物処理計画に係る体制を整備していくというものでございます。次に「災害発生後の生活再建と安定のための事前対策」でございます。こちらは、災害ケースマネジメントの実施準備や、デジタル化による「被災者台帳」の活用拡充などを進めるものでございます。4-2は以上でございます。

続いて4-3治安に関する施策で、主要事業は4つでございます。

まず「体感治安の向上」です。こちらは「防犯カメラ助成」「青色回転灯パトロール」「安全・安心メールサービス」を行うものでございます。次に「特殊詐欺対策の推進」、こちらは「イベント等を通じた被害防止啓発」や高齢者へ「自動通話録音機を無料貸与」という事業でございます。次に「消費者力の向上」です。こちらは「消費者に役立つ情報の提供」「被害防止のための啓発」「相談や被害救済の充実」を行うものでございます。次に「屋外における喫煙対策の推進」です。こち

らは「民間による公衆喫煙所の設置等への助成」や、「喫煙マナー等指導・啓発」を行うものでございます。4-3は以上でございます。

続いて4-4駅周辺等の拠点づくりに関する施策で、主要事業は3つでございます。

まず「蒲田駅周辺のまちづくり」でございます。こちらはJR東口地下自転車駐車場整備工事、駅周辺の中長期整備、駐車場の適正配置に向けた地域ルールの策定、京急蒲田駅も含めた建築物の共同化・再開発等の支援を行うものでございます。続いて「大森駅周辺のまちづくり」でございます。こちらは池上通り及び駅西口広場の整備に向けた取組や、駅周辺地区の中長期整備を行っていくものでございます。続いて「下丸子駅周辺地区のまちづくり」でございます。こちらは踏切の立体交差化の手法を含めた駅周辺の都市基盤整備方針を策定し、都市計画決定に向け、関係機関との協議を進めるなどの取組を行うものでございます。4-4は以上です。

続いて4-5交通ネットワークに関する施策で、主要事業は4つでございます。

「新空港線の整備促進事業」でございます。こちらは一期整備について、事業化及び事業着手に向けた整備主体の支援、また、二期整備に向けた検討及び関係者調整に加え、一層の理解を得ることを目的とした周知活動を行うものでございます。続いて「区内公共交通の改善」でございます。こちらは公共交通不便地域の改善に向けた整理と事業展開を行うとともに、内陸部、空港臨海部における自動運転社会実装に向けた実証実験を行うものでございます。続いて「都市計画道路の整備」でございます。こちらは記載の路線について、着実な取組を進めるものでございます。続いて「バリアフリーによるまちづくりの推進」でございます。こちらはホームドア、駅のエレベーターや多機能トイレ等の整備を進めるというものでございます。4-5は以上です。

続いて4-6都市基盤と住環境に関する施策で、主要事業は3つでございます。

「橋梁の長寿命化修繕整備、橋梁点検」でございます。こちらは橋梁の修繕を着実に進めるとともに、新技術やデジタル技術を活用した維持管理手法を実装していくものでございます。続いて「空家等対策の推進」です。こちらは空家に関する相談対応、改善指導のほか、地域貢献活用のためのマッチングを促進するものでございます。続いて「自転車等利用総合対策の推進」です。こちらは放置自転車対策や、自転車等駐車場のキャッシュレス対応のほか、自転車を安全に楽しく活用する仕組みづくりを推進するものでございます。4-6は以上でございます。

続いて4-7空港臨海部に関する施策で、主要事業は2つでございます。

まず、「臨海部交通の拡充」についてです。こちらは、既存の交通や次世代モビリティなど多様な交通手段の連携について検討を進め、内陸部と臨海部における交通アクセスの向上を図り、就業者や来街者の利便性向上をめざすものでございます。次に、「HANEDA GLOBAL WINGSのまちづくり」です。こちらは、「羽田空港跡地第1ゾーンの都市計画公園の整備」や、「未利用地の土地活用検討」「多摩川沿いエリアにおける河川空間のオープン化」により、憩い・にぎわいの創出を図るものでございます。4-7は以上です。

続いて4-8公園に関する施策です。主要事業は3つです。

「魅力ある公園のあり方・利活用・整備方針等の策定」でございます。こちらは公園づくりの羅針盤となるパークマネジメントマスタープランを策定、推進するものでございます。次に「地域の拠点となる公園・緑地の整備」です。こちらは、比較的規模が大きく、来園者が多い拠点公園について、公民連携手法を活用した再整備に関する取組を推進する、また、名勝に指定された洗足池公園において、景勝地として保存・活用する取組を推進していくというものでございます。次に「身

近な公園・緑地の整備」でございませう。こちらはボール遊び、子育てひろば、いきいき健康など特色のある公園づくりを計画的に推進するとともに、トイレなどの公園施設の更新や整備についても計画的に推進していくというものでございませう。

最後に4-9水とみどりに関する施策で、主要事業は3つでございませう。

まず「グリーンインフラを活用した持続可能なまちづくりの推進」です。こちらはグリーン基金の利活用、防災・減災に資する雨水浸透・貯留設備の設置のほか、環境保全、地域振興に資するみどり空間の整備を行うものでございませう。続いて「散策路の整備」です。こちらは呑川緑道、桜のプロムナード、海辺の散策路の整備をそれぞれ進めていくというものでございませう。最後が「呑川水質浄化対策の実施」です。こちらは水環境改善対策の効果及び今後の方向性の検討に向けた基礎資料の作成、及び、高濃度酸素水浄化施設の稼働等、各種水質浄化対策を実施するというものでございませう。4-9は以上で、事業について資料2は以上です。

最後に参考資料4についても、一括でご説明させていただければと存じます。

参考資料4につけているこちらのイメージ図でございませうが、各基本目標のコンセプト(案)というものでございまして、基本計画の冊子を作成する際に、基本目標ごとに扉となるページを作成してまいります。その扉のページには、基本構想で定める基本目標の文言が入っていくことを予定してありますが、それに加えまして、当該基本目標がどのような内容なのか一目で概要をつかめるようなイメージ図をつけてまいりたいと考えております。

本日お示している資料は、まだ庁内で調整中のものでございまして、今後さらにブラッシュアップしていくものではございませうが、特段、お気づきの点等あればいただければと考えております。事務局からの説明は以上でございませう。

・施策についての意見交換(前半)

◎中西部会長

ご説明ありがとうございます。この基本目標4の全体像というところですけども、非常に、まだ多岐にわたっているというところがわかったかと思ひます。それでは、このあとの進め方について確認させていただきます。

まず、これからかなり時間がかかると思ひますが、それぞれの施策、4-1とか4-2とかごとに9つの施策をチェックしていきたいと思ひます。前回までの懇談会の意見等を踏まえてはあるということですけども、その施策に紐づいて主要事業というものも四角囲みで、資料2の冒頭、一番右の列ですけども、四角囲みで主要事業が示されていますので、その部分は特に見ていただきたいと、そういうことでよろしいですね、事務局として。

ほかにも事業に過不足がないかという全体についてももちろんいただければと思ひます。

そして、この基本計画、実施計画の策定に向けては、次の第3回の懇談会が12月12日となっていますけれども、そこが最後の懇談会としての機会になるということだそうです。

ただそれが30名以上の委員会で、かつ2時間ということですので、ほぼ個人個人が発言できる時間はあまりないということで、今日がしっかりと発言できる最後の機会であるというふうにご理解いただければと思ひますので、可能な限り、思いつくところを全部お話いただければと思ひます。

それからもう1点、これは半分事務局のリクエストでもあるのですが、よくある、事務局が出してきたものについて質問とかコメント、向こうを見てずっと話をしているということではなく、な

るべく委員間での意見交換というか、それぞれに皆が違うことを言っているとしてもそれを少しどういうことだろうということも踏まえた意見出しにしたいと思っておりますので、基本、発言は委員間で行うと、委員に向けて行うような想定になっております。私のほうで必死に捌きたいと思っておりますけれども、ただ、もちろん質問等ある場合には事務局にお尋ねいただいで構いません。

非常に多岐にわたる分野ですので、担当者全員が参加できるわけではないというふうにも聞いていますので、質問の内容によっては後日の回答になる場合もあるということだそうなんです。その点ご承知おきください。では時間もありますので進めていきたいと思っております。

資料2の、今表示されているこの一番左の4-1とか4-2とか、そういう順で見ていきたいと思っております。それぞれが15分ぐらい、1時間ということですが先ほど言いましたとおり、必要なものは少し手厚く、そうでないものは、特にこれで問題ないという場合には素早くという感じでメリハリをつけて進められればというふうに思います。

4-1からまいりたいと思っております。4-1の災害に強く回復しやすい減災都市の実現ということについて、こちらについていかがでしょうか、ご意見あればと思っておりますが、どなたでもご発言いただければと思っておりますがいかがでしょうか。

私からよろしいですかね。私はこう考えているということなのでご意見いただければと思うのですが、4-1-2に、燃えない・燃え広がらないまちづくりの推進というのがあって、全く同じ実施計画事業名で主要事業が位置付けられているところです。ただこの主要事業の名称と事業の概要の中を見ると、割と特定の地域の不燃化の話のように見えるなと思っていて。ただ、防災のときに燃え広がらないというのは、本当は広く全域そうなるべきだと思いますし、大田区の中で燃えやすいところがまだまだあるんですね。そういう意味では重点的にはこの事業のところでいいと思うのですが、これはモデルとか沿道の整備とあわせてやったところということで、それ以外に、本当は、例えば防火地域とか準防火地域とか、都市計画上で言うと、そういったものを見直し、あるいは建築物の規制なども考えながら、広く、本当は防災、不燃化を進めるべきと思うところですね。そういったことも、例えばその都市計画上の規制を再検討するとか、そういったものをここに書くかどうかはさておき、一緒にやるべきと思っております。

あとは、4-1-1の例えば倒れないまちづくりとかということと、それから4-1-3の橋梁の強靱化、多分その民地の部分と、インフラの部分というところで分けられるかなと思うのですが、この辺も、全体として見れば、空間的な強靱さを高めるといったことだと思っておりますので、不可分ところとか、実際の事業上はそのあたりを連携させて、総合的に優先順位を決めるとか、そういったことも必要になってくるのではないかなというふうに感じます。

私はずいぶん気がなりましたことを話しましたが、いかがでしょうか。

◎松山委員

よろしいですか。

◎中西部会長

では松山委員、お願いします。

◎松山委員

どう整理したらよいかみたいなどの結論がまだないのですが、この4-1というのはどちらかというとハード的な防災の対策だという理解をしています、というときに、今部会長もおっしゃったように全域の都市計画みたいなものの文脈のときに、防災公園とか、その辺の文脈をどういうふうに入れていったらいいのだろうというのが気になっています。公園はこの部会のかかなり大きなテーマである理解で、どちらかという、昨年の住民アンケートで出たポイントはこの4-8の魅力的な公園、住民の方の日々の生活におけるクオリティを上げる上での公園というのがメインだったと思いますし、それはそれで4-8として整理をして議論をすればいいかなと思うのですけど。

一方で防災拠点的な意味としての防災公園の整備みたいなものも、国交省も進めているところだと思うので、そのあたりは、もし入れるとしたら、このハードの文脈として、ただ公園という軸で言うとかぶってしまうのですけど、その辺は入れる余地はもしかしたらあるのかなとは思いました。

◎中西部会長

ありがとうございます。どうしてもこういう計画というのは、ツリー状に分かれていくと、あたかもこの枝とこの枝が別物みたいになるのですけど、実際には連携して横つなぎでやるべきところがありますよね。だから、これは多分、事務局でどう入れるか検討いただければという感じですが、例えば4-8の身近な公園・緑地の整備というところの書きぶりの中で、防災上の位置付けにも少し言及して、より公園を整備する必要性に、もっとこう、タイミングというか。

◎松山委員

なぜ公園が都市において重要なのかという文脈のところにはやっぱり入っていたほうがいいのだろうな、とか。正直今の田原区における防災公園とかの整備状況みたいなことをわからずに、結構進んでいるのであればそんなに課題感がないのかもしれないのですけれども、というのはあるのですが、公園の大きな目的感の1つとして入れていてもいいのかなとは思いました、というところでございます。

◎中西部会長

そうですね、ありがとうございます。例えば、資料2の39ページとか、あるいはその前の31ページの中に、基本的に魅力を高めるような整備の書き方ですけれども、当然その中で防災設備もしっかり入れるようなことを、この事業概要の中に少し書くとか、設計するときそれを取り入れるとかすると連動しそうですね。ありがとうございます。大変重要なご指摘をいただいたと思います。まさに災害について公園は重要な気がします。

ほかいかがでしょうか。えびさわ委員、お願いいたします。

◎えびさわ委員

今部会長からもお話があったように、4-1-1、2に関しては倒れない、燃え広がらないということに関しては、民有地というところになってきて、3からの橋梁だったりとか、無電柱化というのはインフラというような形になってくると思うので、結局のところ行政が手をつけられるインフラに関しては、進めていこうと思えば進めていけるのかなと思うのですけれども、民有地で木密地域

だったりとかを不燃化にしてくださいと言っても、いくら助成があっても、その助成ぐらいでは手を出せないのですよという人たちが今残ってしまっているのかなというところがあって。網掛けをしていって、不燃化地域ですよということで、建て直すときには必ずこういう形にしなければいけない。これは建築基準法上の網掛けと同じように、旧耐震とかということと同じように、新しく建てる場合にはこうですよというふうになっていくと、やっぱりバラバラな動きという形になってくるというところで、全体像をまとめなきゃいけないのに、こういうものにはいくら助成が出ますよと細かいことを書くことはできないのかなとは思いますが、見た方たちが、うちこういうのでやってみようかと思えるようなつくりを、引っ張っていって詳しくはこちらへ、みたいな形なのだったらいいなと思うのですが、見た人が、うちの地域は網がかかっているところに入ってしまったから、どうせだったら、やれるのだったら今やっちゃおうかと思えるような作り込みというか、QRコードを入れるのか、そういう形で、見た方たち、新しくできた計画を進めていく上で、区民の協力が必要なところには、区民がわかりやすいところにいけるというような作り込みをしたほうがいいのではないかなというような気がしております。

今お話があったように、公園だとインフラと同じように区でできることはどんどん進めていけばいいのかなというふうに思うので。私たち、専門部会にいる方たちは皆さん、ある程度理解をしている人たちなのでわかるのだと思うのですが、一般の区民の人たちに対して進めていく上で、どこまで区民の人たちが見てすぐ取りかかれる・理解ができるというふうに持っていくかという、細かいことまでやる必要がないと言われてしまえばそれまでなのですが、どうなのかなというところはあります。

◎中西部会長

ありがとうございます。まさにそれが耐震化の促進に難しいところですよ。やれるところはやってしまっていてという、おっしゃるとおり。

例えば、主要事業1の倒れないまちづくりの推進、5ページだと、私もこれを見たときにコンサルの派遣、診断助成、新耐震がそこまでで、旧耐震は一応工事の助成もあるということですが、なかなかどこまでできるかなというのは見て、不安というか難しそうかなと思ったところではあります。多分、これをしっかり助成を手厚くするというのも予算の問題もあるとは思いますが、一方で啓蒙的というか啓発的というか、情報を届けることをしっかりやって、まず、コンサルの派遣とか、そういったところまで辿り着いてもらうということも大事そうなので、これはこの実際の事業の組み立てにもなるかと思いますが、そういった、用意して終わりではなくて、いかに必要そうなところに届けるかということも、この事業の1つとしてつけてもらう。場合によっては情報を届けるような手だてを入れますというようなことを、例えば内容にしっかり明記してもらう。それも大事かなというふうに思いました。

一方で、多分具体的な支援はこれがつけられてからの検討という形かなと思うので、誘導の先は多分まだないのかなと。ただでもそれを来年度以降きちんとやっていただくというリクエストという感じですかね。

ありがとうございます。では三木委員、お願いします。

◎三木委員

今部会長がおっしゃったもの、そのとおりだと思うのですよね。特にこの木密地域とか、個人に関わる、ここの部分が非常に大きい。そうすると個人の財政力とかそういうのもあるだろうし、それを区がどこまで保障できるか、正直言って多分区民が満足できるような形での保障、助成というのはおそらくできないと思うのですよ、これは。一般的に考えて、常識から考えて、それが普通ではないかなと思います。

そこで、先ほどえびさわ委員がおっしゃったように、要するに啓蒙ができる、どうやって皆さんをそういう考え方に持っていけるかというのがこの計画の1つの大きな部分ではないかなと。金銭面は、おそらく個人的にも、区の部分でもあるかと思しますので、啓蒙の考え方、区民の皆さんが、これからいつ起こるかかわからない大災害に対して、今後、色々考えましようよというのを、地域も含めて、どう啓蒙していか。2040年ぐらいまでにできればいいのかなと。ま、できるだけ早い段階でね、これは。

特に木密地域、これは本来本当に、先ほど松山委員もおっしゃったように公園がいっぱいできて、それこそ江戸時代ではないけど、その災害を避ける、燃え広がらないような場所を広くつくっていくというのは重要なんでしょうけれども、個人の土地をいきなり取り上げて公園にしますよというわけにはいかないでしょうし。だからこれもなかなか難しい問題がある。そういう部分を含めて、どう啓蒙していくか。これをこの計画の、基本計画の中にどう盛り込んでいくかということが大事ではないかなと思います。以上です。

◎中西部会長

ありがとうございます。多分根っここの部分は同じで、どうやって広めるかという部分ですよ。それについて私の個人的な経験から言うと、多分、モデル的というか重要度をつけて、ここはきちんと手を入れないと危ないような場所というのをしっかりデータ分析した上で、しっかりそこに入り込んで行って、診断の事例とか、何なら工事助成を受けた例とかを出現させると、周りの人たちがそれを見て、こういうことができるのだ、と知って広がるということもありますので、これは事業の進め方の話だと思いますが、そういうことをリクエストしたいなという感じなのです。

どこまで書けるかになりますけれども、そういったメリハリをつけたと言いますか、少しモデル的に入っていくというようなことが言えるのではないかなと思います。

では永井委員、お願いします。

◎永井委員

1番目に倒れない、2番目に燃えないとあるのですが、倒れないに関しては個別の建物を色々調査するとかそういうものがあるのですが、燃えないというのはなかなか個別で対応しにくいというか、例えば能登地震とか3.11、神戸でもそうですけど、広範囲に燃えるというような状況が起きたときには、もう個別ではなかなか対応できないので、そこはやはりいわゆる長期的な観点から色々な施策で、本当に行政しかできない。個別だったら個別の家を耐震構造にするとか防災するとか、不燃化するとかできるのですが、まわりの住宅が木の部品だったら、なかなかそういうことは難しいので、そこは具体的な計画で実際施策をやるのは、どういうふうにするか難しいのですけれども、まち全体の不燃化、これは行政でしかできないことなので、その辺はさらにここから実施に向かって十分に練ってほしいなと思います。以上です。

◎中西部会長

ありがとうございます。私も最初申し上げた、個別のことがここに書かれている感じがしますので、一方で、しっかりお金を整備に注ぎ込むというのが難しい中で、ルールの部分とか、そういったものを少し見直すとか、そういったことも考えていただきたいということかなと思います。

ありがとうございます。一通り皆さんご意見いただきましたが、4-1についてはいかがですか。よろしいでしょうか。お願いします。

◎松山委員

これはただの情報共有というか、少しだけ話も先ほど出ましたが、ハードのところでは行政ができることは一部支援をするということで、皆さんのこうした経験も大事かなと思って。1つ例えば事例的にいくと、それはそれでお金がかかるのでやるという意味ではないのですが、デジタルツインみたいな話を使って、みたいな文脈は結構最近よく聞くなと思っていて。例えば能登地震の被害とかも、そのあと今、デジタルツインで災害前の状態を再現して、実際こういう被害で、例えばここがこういうふうな道路でしっかり整備されていたらこういう被害になったのではないかというようなシミュレーションをやったりとか、その実証が始まっていたりもするのですよね。そういうところで、無電柱化していると、例えば首都直下地震があったら実はこんなに被害が変わるのだとか、何かそういうところを、テクノロジーを使って見せていくみたいなのところも、ゆくゆくの議論としてはあってもいいかなと思って、そこだけお話ししたいなと思って話しました。

◎中西部会長

ありがとうございます。特に防災はシミュレーションがすごく発達しているジャンルでもあるので、そういったものは区民に向けて発信することというのは確かにそう思いますし、事業の進め方の優先順位をつけるという意味でも重要なことかなと思います。ありがとうございます。

4-1よろしいでしょうか。このような感じで進めていきますが、事務局では適宜こちらの意図とか意見とかリクエストを汲んで反映していただければと思いますので、よろしいですかね。お願いします。

◎齋藤部長

様々なご意見、ありがとうございます。それで1点だけ補足でございますが、ここに出ているのは主要事業ということでございまして、これらを優先的・計画的にやるということの意図でこれを書いているというわけでございまして、これしかやらないということではございません。それ以外のところの地域とか例えばそれをどう進めていくのかということをどう表現するかという、そういう課題が残ったのかなと考えておりますので、そこは整理したいと思っております。ありがとうございます。

◎中西部会長

ありがとうございます。そうですね。今後4-2、4-3を進めていく中で、最後に事務局から、もしこの場でフィードバックしたいことがあればという感じで発言いただく時間を設けたほうがいい

ですね。ありがとうございます。

次、4-2に入りたいと思います。4-2については、地域力を活かした防災対策の推進ということで、これも防災系ですけれども、いかがでしょうか。これこそ、いかに区民の方に問題意識を持ってもらって取り組まれるかという難しい話だと思いますが、ご意見をお願いします。

皆さんに考えてもらっている間に、私が1つ気になっているのが、これは細かい言葉遣いの問題で、しかも世の中に広まっているので変えろということではないのですが、個人的に防災対策という言葉に少し違和感があって、災害対策とかならわかるのですが、防災対策、どういうことなのだといつも思っています。ただ国の政府の中で防災対策と書いてあるので、使われてしまっているのもう仕方がないかなと思っているのですが、少し気になる場所ですね。

それから、資料2の10ページで、施策の方向性の②で区民が成果を共有できる普及環境の構築といったところが、前回入れてもらったところなのかなと思っているのですが、ほかのところであるのかもしれないけれども、少なくとも主要事業では具体的にどこに入るか少しわかりにくいかなというふうに思います。一人一人がというところは、色々書いてあるのですが、共有できるとか区民間の、コミュニティを絡めたところについてはやや難しいなと思うのですが、そのあたりが方向性には入れられたものの、主要事業の中でどうなるのでしょうか。というのは、これについてももしお考えがあれば最後にお聞かせいただきたいと思います。もし手薄だということであれば、そこのところを色々やる必要があるのではないかなと個人的には考えています。

皆様、いかがでしょうか。これも難しいところですが、ではえびさわ委員、お願いします。

◎えびさわ委員

私も部会長が言ったように、防災対策という言葉を使っていたのですが、やっぱり防災意識の向上という言い方と、災害対策という言い方をしっかりと分けたほうが確かにいいのかなとすごく思っておりまして、この4-2の資料に関しても、主要事業のところには、防災意識の高揚というところもありますし、一番上のところで防災対策と書いていますけれども、減災までつければ対策でもいいのかなと思ったりするので、これは言葉の取り方ですから、ここを直せとかそういうことではなくて、皆さんが意識として、防災意識を向上させていきましょう、災害に対策をしましょう、という思いを持っていただければ別に文字は関係ないのかなと思うのですが、

それこそ三木委員が色々、多分ご存じだと思いますけど、各地域で、色々防災に関する、災害に対するということで、避難所運営協議会だったりとか、活動拠点とかというのを色々地域の皆さんのご協力を得ながらやっていますけれども、その中にいる方たちというのは、それこそ自治会・町会の役員さんだったりとか、あとはその活動に意識の高い方で、そういう方って、私もそうですけれども消防団に入っていたりとかして、逆にマンパワーとしてはどっちに行くのとなったら、やはり消防団の活動に行かなければいけないというときもあれば、活動拠点とか、運営協議会に顔を出せるかと言ったらというのがありますし、逆に今度、町会の人たちがそういうところで、被災した区民の人たちのということで、と考えても、自分の家が被災してしまったらどうするのかという部分が、いつもグルグルグルグル回っているかなというふうな思いがあるので、こういった部分もしっかりと、消防・警察・自衛隊というところまでいくと、多分相当大きな災害ということになってくると思うので、やっぱりその、防災意識の向上のほうに力を入れていく、災害対策ということで各家庭の自助という部分での意識を上げていくということにウエイトを占めて大きな災害のときの

ことは当然、災害対策として見ていくのがいいのかなというふうに思っております。

この間もテレビでやっておりましたけれども、大きな災害があると、何か色々防災グッズがよく売れる。だけどそれは2ヶ月間で終わるといような話があり、意識は持たないのですよね。だから、そういうところで日々、こういうことをしっかりと自分たちでやっていかなければいけないのだよねという、ここのことを絶えず言っていけるようなまちづくり、地域づくりをしていくのはどうしたらいいのかと、いつも悩んではいるので、行政の人たちの力だけではどうにもならないと思うので、我々住んでいる区民がそういった思いをみんなで共有していかなければいけないのかなと思うので、そういうところに、意識の部分を多く入れてもらって、誘導してもらえたらいいかなというふうに思っております。以上です。

◎中西部会長

ありがとうございます。これは、私もさっき言ったところを改めてチェックすると、12ページ目の主要事業②については、ここはかなり今おっしゃったことを想定している部分だと思うのですが、ただ防災訓練とか具体的にできることに絞るとこういう形になってしまうかなとは思いますが、やはり平常時と言いますか、日常のコミュニティの部分も考えないといけないのではないかなということもあるのかなと思います。

確かに、ここには、地域、自治会・町会だけで対応しがたい、と書いてあるのですが、一方で自治会・町会だとか、消防団とか、実際には相当やらなければならないのが現実ですので、その自治会・町会の、ある種の支援とかそういったものも、一方で必要なのかなという気もいたしますね。このあたり、いかがですか。

◎三木委員

地域の負担、かなりあると思うのですが、ただここでやっぱり考えなければいけないのが、自治会・町会では自助、共助、これがメインになっているのですよ。公助というのはそのあとで来るというところで、今、学校防災拠点というのが各地域に設けられていますけれども、いざ何かあったとき学校防災拠点に入れる人、これが1,300とか1,500名がマックスになっているのですけれども、実際それだけの人たちが入れるのかと言ったら、学校防災拠点はとてもではないけどそんなに人が入れる場所ではないのですよね。

通常はそれだけ入れるような形になっていますけれども、実際は違うということは、基本的には火災とかそういうところは別ですけれども、ご自宅で残れる方は在宅避難が大田区の場合は基本なのではないのかな。在宅避難がどうしても無理だという方は、学校防災拠点に来てもらうという形が本来、理想かなと。

そこで在宅避難した人に物資をどうやって届けていくのかとか、色々な問題があるのですが、ここで問題になってくるのが、大田区には今、大森・蒲田・調布と、3つの地域がありますけれども、その3つの地域それぞれに地域特性があるのですね。そうしますと、その地域特性にあわせた形で今、各学校防災拠点や防災訓練とかそういうことをやっていますけれども、それを超えた分、例えば調布地区ですと、私のところが久が原地区ということなのですが、あと、鶯の木とか嶺町、田園調布、雪谷とか色々あるのですが、台風19号のときに、田園調布が一部水没して、鶯の木地区は多摩川が氾濫するという話になって、どこへ逃げるのだというところで、

鶯の木の特別出張所が自分たちのところは低いところなので高台に逃げたいと、そうすると久が原地区というのは高台なのですね、久が原地区で受け入れてくれないかというのが鶯の木地区からありまして、出張所が話し合っているですよ、という形で、久が原小学校が拠点になっていますので、そこで30~40名を受け入れたのですね。

そういう形でいくと、1つの自治会連合会の地域だけではなくて、その周りを取り巻く調布地区なら調布地区の5つ6つの自治会連合会が共同して訓練をやるとか、大森、蒲田もそうですよね。自分たちの特性にあわせた、例えば羽田方面、蒲田方面という、今度、地震があったときは津波が来ると。羽田方面は津波にやられる可能性がある。そうすると、その人たちはどこへ逃げるのだという話になってきますから、そういう広域防災というのは、今後大田区の防災の方向性としては考えていかなければならないのかなというふうに思っています。それは自治会等も広域防災をやろうよという形で今話をしていますけれども、悠長に考えているときではないのでね。これは早急に、大田区としても、広域防災に対しての方針、これをどういうふうにしていくのか考えて、それを今回のこの基本計画の中にどう落とし込んでいくのか、それも考えた方がいいのかなというふうに思います。

◎中西部会長

ありがとうございます。おそらく資料2の12ページには相当意識された実施計画事業になっているのだと思いますが、ただこの書きぶりは、総合防災訓練というのは、例えばトイレ問題だけ、多分、在宅の問題はトイレだけではないと思いますし、そのあたりの防災訓練の設計というか、内容を、よくよくその実際の在宅とかあるいは大事な場所、道の話とか、そういったところをしっかりと設計してやっていただくというような形を取りたいということですかね。そのときにはもう本当に広い範囲でやらないといけないだろうと。

◎三木委員

特に、インフラ整備の中で、今、大田区というのは、下水道とかそういうインフラだったらどのくらいの耐震率というのかな、どのくらいだったのかね。東京都で50%くらいですか。

◎中西部会長

4-2の最後にもしあればこの場で、なければあとで教えてください。

◎三木委員

というのは、飲料水とかそういうのは、何とかなるのですよ、ある意味では。ところが、トイレ問題、今、部会長がおっしゃったように、トイレというのは、学校にしても自宅にしても、下水が流れなければどうしようもない。そうするとどうやって処分するのだということになると、学校防災拠点の場合は色々回収できる。在宅の場合は回収のしようがないよね。自分たちでどうやって処理するのか。それが下水道のインフラがとりあえず整っていれば、マンホールとかそういうところにとりあえずは流せるということも考えられますので、その辺で今耐震率をお聞きしたのですけれども。

◎中西部会長

趣旨としては、要は基盤の部分がしっかりしていることが大事ですよというご指摘と、実際どうなのかというご質問だったかと思しますので、今この場ですぐ出るかわからないですが、確認してくださいということにしておきます。もし今日このあとに、回答が可能であればお聞きしたいのですが、そうでなければ、それが大事ですよというご指摘ですよ。ありがとうございます。

◎えびさわ委員

今三木委員からお話があったように、トイレの問題に関しては大田区でも家の方で、自宅で避難をしていただけるという方に向けての携帯トイレというものの配備を進めているところと、あと公園や学校なんかには水をあとから流すことができるマンホールトイレとかの整備とかも色々進めているところではあるのですけれども、今、会長が言ったように、耐震がどうなっているのかと、そこが割れてしまったら流れていかないよねというところは確かに心配ではあるので、でもそういう整備は、大田区でも防災・減災という部分での対策とあわせて、そうなったときのための対策は議会と一緒に色々進めておりますので、よろしく願いいたします。

◎中西部会長

議会からの答弁だったということで。ほかいかがでしょうか。永井委員お願いします。

◎永井委員

私は大森消防団に入っていて、日頃そういう町会同士の訓練の補助などをやっているのですけれども、はっきり言って参加する人は少ないです。なかなかそういう防災意識は低い。低いと言ったら変ですけれども、でもいざ起ると、多分皆もう大慌てで、どうするどうする、となったときに、もちろんスキームに従って準備をしているのですけど、普段、というかその人たちはもう、全然知らない。

ではどうするのだということで、例えば大田区で災害ポータルサイトみたいなものを立ち上げて、そこにアクセスすれば全部わかるとか、そういうふうな、こういうものをやっていますとか、今、どこがまずいとか、ということが全部わかるような感じにすると、住民も日頃は全然興味がないけどいざ災害が起きたときにどうすればいいのかというときに、そこにアクセスすれば全部情報があって、自分が安全なのか・危険なのか、何をすればいいのか、そういうような、日頃それはこういう計画に従って準備しているのは実際起きて自分はどこにどうすればいいかわからない、情報が伝わってこない。

皆大体今はスマホを持っているので、停電になってもしばらくは使える、情報が入る。今準備しているものがどのように発信、受信できるか、それが一番大事なのかなと思います。本当に災害が起きて、どうしていいかわからない。テレビも停電してつかない、スマホだけです。スマホも色々なフェイク情報が山ほど、変な情報が溢れているので、そこで正しい情報発信を、そこにアクセスすれば、区がこう言っていますという情報が入ると非常に安心できるのではないかと思います。以上です。

◎中西部会長

ありがとうございます。情報のワンストップ化の話はすごく大事ですね。おそらく区のホーム

ページのトップにアクセスできれば、本当の災害時には誘導などをするだろうと思いますが、そういったことをやるというような確認が日頃あると、より、それは行きやすくなるのかなという気がしますね。ありがとうございます。大田区の防災のページがあるので、そこにパッと行けるかどうか。いざとなったら区のトップページに。

◎松山委員

今の永井委員の課題提示とも似ているのですが、防災意識の高揚が重要だというのは、共通認識かなと思っていて、それに対する主要事業2のところ、総合防災訓練とか、そういうものがメインに書かれていて、それももちろん重要じゃないですか。

ただ、防災訓練に実際参加される方というのは、一定の防災意識を持たれていて、まさに自治会の方とかというところで、表現が難しいのですが、もう1個下のレイヤーというか、みたいな方に対する対策が、もちろんこれは主要事業を書いているだけなのでこれがオールではないということ、先ほどおっしゃったので、それが求められるという理解なので、そこに入っていればいいという前提ではあるのですが、まさに文言としては書いているマイ・タイムラインの作成とか、そういったところの啓蒙とかを含めた、本当のエンドの住民の方に対する高揚施策で何かアクションとして書いてもいいのではないかなという気はしました。

◎中西部会長

ありがとうございます。まさにここに書いてある普及啓発等を通じ、というのを、もっと具体的にメリハリをつけてやる必要があるだろうという指摘ですかね。

さっきの4-1もそうですけれども、いかに一般の方に意識を持ってもらうかという部分が問題かなと思います。4-2についてよろしいでしょうか。事務局から4-2について何かありますか。

◎齋藤部長

情報発信についてはご指摘のとおりでございまして、大田区においては防災アプリがあるので、アプリをダウンロードしている人数はそんなに多くはなくて、というような課題がございまして。このアプリについてせっかく所管部があるので説明してもらっていいですか。

◎土屋防災危機管理課長

大田区の方では、まずバックヤード側ですね、庁内の中では総合防災システムがございまして、そちらで避難所ですとか、それから各部署、緊急医療救護所とつながっております。そこで情報がまず一元的に管理されております。

そのうち、避難所など区民に必要な情報、混雑している、開設しましたとか、そういった情報については先ほどご紹介いただきました防災アプリにアップさせていただきます。

それから、アプリだけですとダウンロードされていない方々は使えないということもございまして、全く同じ構成で、防災ポータル、ブラウザで見られることも可能になっております。その中でも特に重要な情報については、緊急のお知らせをさせていただいているというところ、

それから、情報については複線化がやはり必要になってきますので、防災行政無線などのアナログなものも当然、従前から用意されていて、こういったものについて、アプリやポータルで音声

を再度再生させるといったようなこともございます。

例えば、アプリでは色々プッシュ通知があります。ポータルではそれはできないのですけれども、例えば外で、防災無線で何かおかしいことが起こっているなどということがわかればそれがプッシュになって、防災ポータルでもその辺については確認することができるというような仕組みになっています。

そういったことで区民には情報を発信させていただくということと、それから、先日もアプリを使った訓練をさせていただいたときに区民に参加していただいたのですけれども、やはり我々が、行政が発信している情報というのは非常に正確な情報というか、色々なデマ情報が出ていますよという中では、こういったものを使ってくださいということで、呼びかけなどをさせていただいている、そんな次第でございます。

◎高野危機管理室長

危機管理室長の高野でございます。今課長から説明があったとおり、アプリは便利なものなのですが、まだまだ知られていないというところで、情報伝達訓練といって9月8日に、初めてアプリを使った訓練をしました。そこで参加する数はまだまだ不十分なのですが、これを定期的にやりながら便利さ、ただ情報が便利でしょうということだけでなく実際使っていただいて、活用させていただくところになります。

話は別になるのですけれども、先ほど話を聞いたところ、自治体ですとか、警察、消防、自治体だけでは大地震のときにはどうしても救助とか、そういった形で人数が足りないということで、なかなかできないと。三木委員からお話がありましたけれども、やはり、20万人の避難者が出ると予想されますけれども、避難所に皆さん来れるのか、それ以上来るかもしれないというところを想定しながらやっていかなければいけない。

ただ場所にも限界がありますから、先ほどお話があったように、東京都とも情報交換をして、在宅避難、これを進めていこうというところで今進めているところでございます。世論調査などでも、在宅避難の準備ができているかというとなかなか不十分というところで、先ほど普及啓発の話もありましたけれども、そういったところをしっかりとっていきたいと思います。

総合防災訓練のあり方も、今まではシナリオのとおりやれば終わりという形になっていたのですけれども、先ほど色々課題も書かせていただいたのですけれども、ごみの問題ですとか、帰宅困難者ですとか、ご遺体ですとか、そういったものもすべて、今、課題を抽出して、これを課題を解決するためにいかに地域の方と総合防災訓練の訓練内容として今詰めて、今後やっていきたいと思っておりますので、そういったところを総合的にやって、将来に皆さんが安心できる安全のまちづくりというところでやっていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。以上です。

◎西山まちづくり推進部長

先ほど三木委員から、いわゆる水害に対する高台という話が出ましたが、実はこれについて、資料が戻ってしまうのですが、今回4-1-5というところに、水害から命を守る高台まちづくりの推進ということで、実は今年度中に、高台まちづくりの基本方針というものを区でまとめようと思っております。

これは区のハザードマップに基づいて、震災リスクがあるエリア、その中で一時的に避難できる

場所というのを確保するため、こういった計画の基本的な考え方で整理をしているところでございまして、基本的にはこの池上通りから南側の平坦なエリアというのは、基本的には水没して、深いところが3メートルからですから、建物1階もすべて水没してしまうという状況ですので、そういったような状況にあります。

先ほど啓発というお話が出ましたが、水害に対するリスクをご承知の方・ご存じの方というのは少なく、7割の方がそういうリスクを把握していないという状況ですので、先ほど出ています啓蒙啓発というのは大事ななというふうに思っています、4-1で、4-2と異なりますが、関連していただきましたので、補足させていただきます。ありがとうございます。

◎中西部会長

ここぞとばかりにご説明いただきました。当たり前と言えども当たり前ですが、非常にそういったことは丁寧に考えられてはいるので、いかにそれをしっかり区民に知ってもらおうかということとか、それからより使い勝手のいいものにしていってもらおうかということなどの複合の話かなと思います。

あと、これもそうですけど、それぞれの主要事業が個別で完成するものではなくて、それが組み合わせあって結局総合的に住環境をよくしていくということだと思いますので、そういう意識は当然お持ちだとは思いますが、意識していただければと改めてお伝えしておきたいなと思います。4-2についてよろしいですかね。

丁寧な議論でこのペースだと随分かかってしまいますので、少しご意見のときには、要点を絞ってお話いただく必要があるかなと思いますが、一方で今、いい議論ができているかなと思いますのでよろしくをお願いします。

次4-3、治安がよい美しいまちの実現というところ、これについてご意見いただきたいと思えます。

私、最初に申し上げたいのが、4-3-1の体感治安の向上というのがまさにトップに来ているわけですが、これは多分言葉遣いの問題なのですけれども、体感治安の向上というのは、体感だけが良くなればいいというふうにも読めなくもないと思うのですね。安心感とか、実際には安全とかそんなに問題ないのだけれども不安を感じる場所もあって、実際に治安が悪いところならば悪いということ、まず、実感としてよく感じていただくということだろうとは思っていますね。そういう意味では言っていることは間違いではないのですけれども、一方で、16ページ、これも実際のところはカメラの設置とか防犯に資するものなので、主要事業名はもう少し実際の安心感を高めるような防犯対策、というような言い方のほうがいいのかという気がしてしまいます。体感と言うと体感だけよくなればいいのではないかと感じるのです。ただ、一方で安心感というのはすごく大事になりますのでここに書いてある内容は必要なことだろうというふうには思います。

まず言葉遣いにケチをつけてしまいましたが、一旦そういうところが気になりました。ほか、皆様いかがでしょうか。三木委員、お願いします。

◎三木委員

このところには載っていないのですけれども、予算とかそういうのは一切関係なく、文言の中に、例えば防犯パトロールというのは各自治会・町会で皆やっているのですよ。そうするとそれは、地域の人たちの安心・安全な、ある意味では安心感を与える活動でもあるのですね。そこは

地域として、地域力向上の中で、こういう活動をやっていきますよというのをもう少し区でアピールしていただけるとありがたいなど。防犯パトロールは218の自治会・町会、全部がやっているわけではないのかもしれませんが、結構多くの自治会・町会でやっていますので、そういった中で、むしろ区の方針として、方向性として文言だけでも入ってもらえれば、やってない自治会・町会も、それに倣ってやってもらえるかなと思いますので、この資料の問題とかそういうのは一切関係なく、区として、地域力の向上で地域とこういうことで協力しますよということをしていただけるとありがたいと思います。以上です。

◎中西部会長

ありがとうございます。確かに自治会でベストを身に付けて毎週歩いたりされているし、自分でもやったことがありますけれども、一方で難しいなと思いますのがまさに自治会がそういうところで、非常に地域の治安に貢献というか自ら取り組んでいるというのは重要なことで、それを知ってもらうことが自治会の加入の向上にあたりかということも思うのですが、一方でこちらにそう書くと、また何かこう、行政からそういう、やらされるのではないかとという考え方も一方ではあるので、書きぶりが難しいところはありますよね。

ただ実際には自治会で取り組んでいる自主的な取組に対して、ここに書いてあることだと思えるのですけれども、適切に努力を支援するというか、そういったことを謳うというかそんな感じになるのがいいのかなというふうに思いますね、割と事実として淡々と書いてあるのですが、書きぶりなどを検討していただくことは必要だと思います。

ほか、いかがでしょうか。ではえびさわ委員をお願いします。

◎えびさわ委員

一番下の区民安全・安心メールサービス、これはずっとやっていただけてすごくありがたいなというふうに思っている部分で、警視庁から入ってきた情報を区民の皆さんに大田区役所から、不審者情報だったりとか色々啓発する部分だったりとか流していただいているのですけど。不審者情報とか、こういった何かこういう方がいるのでお気を付けください、何か危ないと思った場合には、とかという形であるのですけど、前にも議会でも言ったかもしれないですけど、そのあとがないのですよ。だから、ここに不審者が出たというふうな感じで出たときに、当然、その方がそこになくなったことまで通知しなければいけないのかという部分もあるのですけど、内容によっては、親御さんは怖くて子どもを出せないよという、そのエリアに指定されてしまったというか、そこに出ましたと言われてしまうと怖がってしまって。それは捕まりましたとか問題が解決しましたとかというのでやってくれても大変なのかもしれないのだけど、安全・安心メールがポンと来たのですけど、俺のエリアだと思ったときに、刃物を持った人間が、みたいなことになったときもあるわけで、それが捕まりましたとか、解決しましたとならないと、家から出られないと思う人たちも多分、出てしまうのかなというふうな思いがあって。

これはシステム上の問題で警視庁との兼ね合いもあるのかもしれないのですけれども、今後もしもこういうふうな形で情報を出したあとに、捕まった場合には確か捕まりましたというのを見たことはあるのですけど、解決したみたいなのが。でも、不審者の場合には全く、そのあと改善したとかというのは来ないので、そういった部分で不安を持っている区民の方たちから声をいただいたこ

とがあったものですから、いただけるのはすごくありがたいのだけど、そのあとどうなったかわからないから、このままずっと家から出られないのだけどというふうに言う方もいらっしやったりするので、そこはここでしっかりと区民安全・安心メールということでやる場合には、こういうことも少し検討していただけたらなとは思いますが。事務局に聞いてはいけないかもしれないですよ。

◎三木委員

安全・安心メールは、結構皆さん見えていますよね。

◎熊谷生活安全担当課長

生活安全担当課長の熊谷と申します。

安全・安心メールは、基本的に先ほどおっしゃいましたとおり、警視庁メールからの情報をもとに発信しておりまして、約10万人の方が登録していて非常に反響も大きいものになっております。今おっしゃられた不審者情報を、こんなところで痴漢が出たとか下半身露出だとか、そういった情報はもうほぼ毎日のように出ていて、時々、検挙したとかそういったメールが来ていることは確認できていると思います。警視庁側としても、そういったメールを発信したい意向なのですね。なるべく安心感を与えるようなものにしたいものですから。

ただ1つ問題があるのは被害者となった方の協力を得られないと、捕まえましたとか、そういったところができない場合があるのです。だから、警視庁側としても、発信したいのだけでも、逆恨みが怖いとか色々な事情で、そういったメールを発信しないでくださいと言われるパターンが多々あるということで、警察としても区としても、そういった安心感を醸成するメールというのは発信したい意向ではあるのですが、なかなかできない状況ではあるのですが、今いただいたご意見に関しては警視庁にもお伝えして、なるべくさらに検挙情報、こういったことを解決したとかそういったことを流して、安心感を醸成できるように心がけて働きかけていきたいと思っております。以上です。

◎三木委員

今の安全・安心メールの続きなのですが、これはある意味で犯罪的なもの、犯罪というか傷害的なものが結構多いのですよ。ところがこれは警視庁からの多分情報でしょうけれども、詐欺事件の内容の安全・安心メールというのは、ほぼないのですよ。来るのは、大体猥褻関係のメールとか傷害関係のメールが多いのですけれども。

だけれども、2,3日前の、毎日やっているのですけれども、NHKの首都圏ニュースで、今こういう地域に詐欺被害の電話がかかっていますというのが出されるのですけれども、そこでも結構大田区の地域がポンポン出てくるのです。

そういう詐欺に対するものも安全・安心メールの中に入れて、例えば今、大田区のこの地域の中にかかっていますよというのをに入れてもらえるとありがたいなと。犯罪内容が今、偏っている部分があるので、もう少し広い意味での安全・安心メールで、やっていただければと思います。これは少し余分なことですけど。

◎中西部会長

いえいえ、大事なことだと思います。お年寄りそのものではなくても、お年寄りがいらっしゃるご家庭の若い方が受信するだけでも違うと感じました。

多分ここに書いてあるその配信システムを強化しますというのは、システムというメカニズム的なことを思うかもしれませんが、多分、運用とか中身の情報などは、適宜適切にというか、今のようなことを開始できるように、引き続き検討していただきたいということだと思いますのでご検討ください。この書きぶりも含めてですね。すごく重要な、メールサービスとして非常に使われていると言いますか、頼られている仕組みなので、ぜひよろしくお願いします。

では永井委員、お願いします。

◎永井委員

この中に消費者力の向上というところがあります。ほかに、体感治安の向上、特殊詐欺対策の推進とあるのですが、消費者力というと、個人の、だまされないとかそういう力をアップしろとかそういう意味なのだと思いますが、この文章を読むとなかなか、パッとそれが読み取りづらいのかなど。概要のところ2段目に、消費者トラブル事例と対策及び消費者生活センター云々とあるのですが、その辺までいくと、そういう感じの色々な詐欺に近いものもあるしというけれども、その前段で言うと、消費生活に関わる情報云々と、少しわかりづらいのかなというような気がしました。以上です。

◎中西部会長

ありがとうございます。多分これはトラブル対応のことだけでもないので、あえて消費者力と書いたのだろうなというふうには推察するところですが、そこがプラスをよりプラスにしていく話なのか、マイナスを防ぐという話なのかということは、混在しているのでわかりにくいということもあるかもしれないですね。これは書きぶりとか意図を含めて、一度見直していただいて、必要に応じて直していただくことをご検討ください。よろしいでしょうか。

ありがとうございます。それでは4-3については以上としたいと思います。事務局からもよろしいですかね。大分お返しいただきました。

次4-4にいきます。地域の魅力を活かした拠点づくりというところですね。これは私、前回会議で言ったような気がしますが、拠点という言葉がどういうレベルかということ、この場合、区の中の主要駅周辺みたいな感じの拠点づくりということですね。そのあたりについて、になっております。いかがでしょうか。

私の都市計画とかの専門でいくと、結構ビジョンをつくったりしていますので、それに対する言及があってもいいのかなとは思ったところですね。そういったものにもかなり謳われてもいるので、ここはそういったものをしっかり実現していくというような、現在のグランドデザインに書いてありますかね。大森についてはそう書いてありますね。蒲田については、そこまでの言及はないように思うのですが、そういったものを、区の方針、すでにある方針をブラッシュアップしながらしっかり進めていくというようなことは、概要のところには書いたほうがいいかなと思います。ほかの皆さんいかがでしょうか。

◎松山委員

なかなかこれについての意見は難しいなと思っていて、このパートは、方向性は、正直同じことを書いているので、実際の事業の概要に関してもやりますということが書いているので、どういったレベルの内容を基本計画として区民に見せるのかということが気になっていて、部会長がおっしゃいましたが、蒲田駅、大森駅、下丸子駅、この3つが主要な事業であるときに、それぞれのまちづくりの主要なコンセプトぐらいは、こういう方向性でまちづくりをするということまで言えるのであれば言わないと、やりますということしか言えていない気がするので、なかなか反応がづらいパートになってしまっているのではないかなと。我々が意見を申し上げるにおいても、3つの大きなまちづくりを実施しますということ、ある種それだけなので、なかなか意見を申し上げづらいみたいなモードになってしまっているのではないかなという気がしました。

◎中西部会長

なるほど。私はランドデザインを知っているので、それがあってもいいんですけど、いやそれが見えないのではないかな、ということですね。突然といったら語弊がありますが、相当大きいものだけれども、具体的な事業がポンと書かれているように見えてしまうということですかね。

そういう意味でもランドデザインに対してきちんと言及していただいて、少なくともそこではこういうことが謳われているのだけれども、というような説明はあったほうが、これだけ見てもある程度わかるようにしておくべきというご指摘ということでもよろしいですかね。ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。永井委員、お願いします。

◎永井委員

大森駅と蒲田駅で何が違うかといったら、大森にはJRの駅しかなくて、蒲田は東急もあるし、京急の蒲田駅もあって、鉄道において大森と蒲田は全然違うので、そういった違いに関して、何かこうまちづくりも多分、違ってくるのかな。その辺が何か違いがあるのかどうかという、そういう感想です。

◎中西部会長

そういう駅の性格の違いも、これだけ見ると出ていないところもあるということですね。では三木委員、お願いします。

◎三木委員

今、部会長、松山委員、永井委員が言われているように、やはりこの3つのまちづくりをやっていくのだったら、それぞれの特徴というか、蒲田駅周辺だったらこういうふうにしたいのだと。おそらく新空港線ができた最初に、蒲田のランドデザインで確かビデオか何かつくったのですよね、広報プロモーションビデオか何か。そういうものがあるはずですから。蒲田はこういうふうな地域、大森はこうですよ、という部分を、区民の方にはっきりと見せたほうがいいのかと。そうしないと今言われたように、これはいいか悪いかは言えません。基本的に、決して悪いことではありませんけれども。

◎中西部会長

ありがとうございます。さっきも言いましたとおり、非常に具体的な事業が書かれている感じにはなってしまうというのがありますよね。

一方でグランドビジョンというものも、かなりしっかりつくっているものではあるので、そこを見てほしいなというのはあると思いますが、そこでどういうことが書かれているかをうまく、ここにある程度こんなことが書かれていますということは紹介して、グランドビジョン見ようかなというふうに誘導できるようになっているといいかなという気がしますね。ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。よろしいですか。

確かにこの1地区だけでも相当重々しいというか、何回も議論して、グランドデザインをつくったりしていますので、そういったものが前提になっているので逆にどこまで書くのかなというのは難しいと思いますが、そこはまた書きぶりと言いますか、ご検討いただければというふうにしておきたいと思います。では事務局お願いします。

◎齋藤部長

事務局でございます。おっしゃっていることもよくわかります。ありがとうございます。

それで例えばなのですが、この今映している蒲田駅周辺まちづくりという、この主要事業のところの資料のところ余白が多少ありますので、例えばコラムのような形で、この事業というのはい体どういうことというようなことを簡潔に載せるとか、詳細を載せるとなってしまうと、この事業だけというわけにはいなくなってしまうので、そういう仕立ての方法というのものがあると思うのですね。これは下丸子も大森も一緒だと思うのですが、そういうやり方というのものもありでしょうか。逆にお聞きするのですけれども、どうですか。

◎中西部会長

ありというか、やっていただくほうがいいかなと思います。

◎松山委員

私は大賛成です。

◎えびさわ委員

当然私も今、空白のところ、今部長が言ったように、ちょっとしたことが書いてあるというのはわかりやすいのかなと思ったのと、グランドデザインでまず部会長もそうですけど、我々も色々携わっている部分で、まだ未確定要素の部分があって、区民に発信できない部分があったりするもので、QRコードでグランドデザインに飛べるようにと考えたら、まだオープンにはいけない部分もあるのかと思うと、確かにそういうような部分で、どういった表現で、ここに引きつけるかということ考えたときに、今言った要約版みたいな形でもいいのかなという。確定的なものができれば、QRで飛んでもらって、続きはWebで、じゃないですけど、見てもらえるのがいいのかなと思わなくもないですね。

◎齋藤部長

逆に我々としてもPRしたいという部分があるので、そこは考えたいと思っていて、所管部はど

うですか、池田部長。

◎池田鉄道・都市づくり部長

鉄道・都市づくり部長でございます。今お話があったとおり、我々も確かに紹介をしたい部分でもありますので、やはり何らかの形で、コラムがいいのかというのは表現を検討させていただきたいなと思っております。ありがとうございます。

◎中西部会長

ここに限らず、なのですけれども、すでに私全体でも申し上げていますけれども、基本計画が計画のすべてではなくて、本当にジャンル別に山ほど色々な計画があって、そっちにむしろ色々書いてあるのですよね。

なので、全部が全部QRで飛ぶというのは難しいにしても、そういったものがあるのだという情報はやっぱりここに、分野別の計画について言及していただくというのは、結構大事なことはないかなと思いますので、ぜひ、ここに限らず、色々見直してご検討いただければと思います。ありがとうございます。そういったところで情報がしっかり発信されるようになるといういいなことだと思います。

4-4についてよろしいでしょうか。事務局からはよろしいですかね。ありがとうございます。

もう少し、半分以上やっておかないと休憩に移れないので、4-5もやりたいと思います。

4-5誰もが移動しやすく利便性の高い多様な交通ネットワークの形成ということですね。これについて、皆様のご意見、よろしく願います。

これも私、最初に少しだけ、例えば4-5-3の部分ですね、都市計画道路の整備というところが書いてあって、これは本当に私が専門にしている部分の中心的部分で大事なのですけれども、仕方ないなと思いつつなのですけれども、要は区がしっかりできること、区が事業化を図っている街路のところまでになってしまうのですよね。

でも実際には区民が見たときには、区がつくる道路だけではないと言いますか、むしろ都道とか、国道とかとの関係で決まってくる部分が多々ありますので、ここに書いてあるのは、区ができる都市計画道路の整備という意味なのはよくわかりますけれども、一方で、柔軟性についても、都とか国に対する働きかけというのですかね、早期整備を、日頃やっつけらっしゃるのだと思いますけれども、そういったことを基本計画の段階でも入れておいて、総合的にいいネットワークをつくる中で、区の部分をしっかりやりますよというのが出てくるような事業概要の書きぶりになるというのかなと思います。

どうしても都市計画のジャンルは都がやる部分とかそういった事業主体がはっきりしているもので、ほかのところは書きにくいというのがあるのはわかるのですけれども、それはあくまで行政の都合で、区民全体からすれば総合的な道路ネットワークの実現というのがやっぱり大事なことだと思いますので、書きぶりだけ少し検討していただければと思います。皆さん、いかがでしょうか。

これも私、都市計画マスタープランに言及してもらいたいなと思うのですよね。そっちで山ほど議論していますので。では三木委員願います。

◎三木委員

これは誰もが移動しやすく利便性の高い、という話なのですけれども、大田区というのは、これは私も毎回言っているのですけれども、先ほど言った3地区、蒲田、大森、調布と、これは色々特色のあるまちなのだけれども、この3つの地域の移動性が非常に悪いのですよ。調布から羽田に行くにしても大森に行くにしても、大森から調布に行くにしても、非常に利便性が悪い。

そういう中で、今後ここで公共交通機関の整備とか、色々あるのですけれども、今考えられる一番手近なものというのは、自転車移動なのです。ある意味大田区内というのは、自転車だと、どこへでも移動できる。特に電動が今、出ていますから。

そういう中でいくと、下手にバスやそういうものを使うよりも、もう電動自転車で行ったほうがよっぽど近い、便利だという部分があるので、このところ、都道や国道は道幅が広くて、自転車道がつくりやすいのでしょけれども、区道は道幅が狭いところも結構あるのでね、でもそういう中で区道は結構、自転車交通の多いところですから、自転車の安全性を考えられるような基盤整備、これを、今回ですと新空港とか、そういうものになっていますけれども、その中で、要するに、安心して自転車に乗って移動できる、そういう区道の整備、そういうものも考えていかなければいけないのではないかなと思いますけれども。以上です。

◎中西部会長

ありがとうございます。資料2の4-5の部分を見ると、4-5-4で誰もが安全で快適に自転車を利用できる環境の整備というものがあって、自転車走行環境の整備があるのはあるのですよね、主要事業までの位置付けにはなっていないところなのですが、それがどうしても主要事業ではないので、この中で浮かび上がってこないのですが、例えば27ページの、先ほど私も指摘した都市計画道路の整備のところ、安全で快適な歩行者空間を確保するためということに加えて、自転車とか、あとは最近だと自転車に限らず電動キックボードがすごく普及してきていて、危ないところもありますけどね。でもそれも多分自転車と同じ問題があって、LUUPという会社がすごく政治力もあるようですけれども。ただ私も一応試してみて大分その可能性は感じているところですので、そういった自転車等というのですかね、新しいパーソナルモビリティが使いやすい、というニュアンスにさせていただくのもありなのかなという気はいたしますね。自転車だけではないという感じがしてきます。それからそれを主要事業の事業概要の中にも、歩行者と、それから様々な手段がコンフリクトなく通行できるような整備を行っていくということを書いてもらうと、そういったことがあるといいのかなというお話ですね。ただ、自転車だと、調布からこちらへ来るのはびっくりするくらい近いですよ。電車だとぐるっと回らないといけませんけど。

ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。えびさわ委員、お願いします。

◎えびさわ委員

今、皆さんからお話があった自転車で移動ということに関しては、すごく大事なことだなということで、大田区もドコモさんとか、ソフトバンクさんとか色々提携しながら、自転車を使っていけるような環境整備、スポットを結構増やしている部分と、あとは他区や他県に行くということがそのままできるような施策もずっと進めていただいているので、これは今部会長が言ったように、LUUPみたいな電動キックボードに関しての安全性の確保も含めて、とはいえ、普通に大田区にガンガン置いてあるので、大田区が考える前に、もうみんながやり始めてしまっているんで、どう

かな、というふうな思いはあるのですけれども。

どうしても交通不便地域という部分にかかってくると、色々と知恵を絞っていただいて、やっていただいているのですけれども、なかなか、たまちゃんバスから始まり、あとはデマンド交通とかで、予約制でハイエースみたいなバス、民間バスみたいなものをやってもらっているというところでも、今実証実験中ですけどね、やっていただいているのですけど、なかなかうまく作用していないかなと肌感覚としては持っています。

あとは言うなれば、東急さん、京急さんという公共交通会社のバス。電車とバスと両方やっている方たちですけれども、バスが減便していつているのですよ、どんどん。やはり自転車移動する方が増えてきて、コロナでなかなか人と密室にというところを嫌がったところがあって、東急さん、京急さんも多分相当疲弊したと思っているのですけれども。

あとはバスの運転手の不足が出てきて、減便されることによって、より1本のバスにすごい数の人が入ってきてというので、言うなれば悪循環デフレスパイラルみたいな感じになっていつしまっているのかなという部分があるので。

大田区が色々と公金を入れて色々なことを考えているとか、民間の会社をお願いをしてやってもらうというのもありなのですけれども、そういう、もともとある公共交通機関のバス会社さんとかにも、もう少しがんばってほしいというところ、運転手不足ということで言われてしまったら何も言えないところではあるのですけれども、路線を復活してくれ、路線を増やしてくれというのは難しいにしても、今ある路線をキープしていただかないと、利用者の方たちがもっと移動ができなくなってしまって、改善どころではないのかなという気もしているので、そういったところも民間企業の方たちとも色々大田区とお話していただいているとは思いますが、引き続き、そういうところも進めていただければと思います。

◎中西部会長

ありがとうございます。言葉についてですが、総合的に皆さんの移動圏が保障されるような、公共交通の状況をずっと考えてもらいたいということだろうと思いますので、ぜひそういうふうなことが出るように、ご検討いただければと思います。ありがとうございます。

いかがでしょうか。永井委員、お願いします。

◎永井委員

この4つの中で一番皆さん、一般住民が知っていると思うのは、蒲蒲線、それは皆色々なところで宣伝とか色々やって、巨大プロジェクトという感じですごくお金もかけているのだろうというので、みんなが知っている。

2番目3番目4番目、これはやはり地味なのですけれども肅々とやらなければいけない感じだと思います。そういう派手なのは派手で色々あるので、その2番目3番目4番目は先ほど言った自転車みたいな、大田区は結構坂も多いので、確かにそういう電動自転車とかその辺も必須だと思うのですけれども。

そういう一番派手なプロジェクトは、誰も何も言わなくても皆興味を示しますけれども、2、3、4はなかなか、きちんとやっていないと、実際なかなか日の目を見ない。そういうのをしっかりとやってほしいと思います。以上です。

◎中西部会長

ありがとうございます。施策のメリハリのつけ方についてのご指摘でして、発信の仕方かなり重要になってくるかなということですね。

いかがでしょうか。4-5についてよろしいですか。もしこれまでも含めて言い忘れたということがあったら、最後に一度また振り返り、いかがですかとお尋ねしますので、そこで言っていただければと思います。4-5についてはこのようなご意見がありました、何か事務局からありますか。大丈夫ですか。そうしましたら、1時間半が過ぎたのと、課題の半分強をやりましたので、一旦休憩ということではよろしいでしょうか。今、35分ですので10分間休憩くらいでいいですか、45分まで、そういうことで休憩にしたいと思います。

◎齋藤部長

それでは今から10分間ということで、トイレ休憩ということにさせていただきますので、よろしく願いいたします。

(休憩)

・施策についての意見交換(後半)

◎齋藤部長

それでは、そろそろ10分が経ちましたので再開をさせていただきます。中西部会長よろしく願いいたします。

◎中西部会長

それでは再開いたします。長丁場ではありますが、残り、またよろしく願いします。

4-6誰もが快適に暮らし過ごせる都市基盤と住環境の整備という部分で、非常に施策の数は多いのですが、主要事業は3つということになっているのです。この点について皆様いかがでしょうか。

と言いながらいつも私から話すのですけれども、この部分、すごく重要な部分だと思いつつ、例えば、いわゆる主要施策事業に位置付けにくいところでもあるのです。なぜかという、広く総合的な住環境を整備するのは何かぽんとお金をつければいいという話ではなくて、広く色々なことをやっていかなければいけないことなので、それが主要事業の位置付けの相対的な少なさになっているのかなという気はいたしますが。

まず私は、希望としては主要事業に限らず粛々と、と言いますか、ある意味ここを丁寧にやることが行政の重要な部分という気もいたします。都市計画には重要だと思っておりますのでやっていただきたいというのが、大きな方向性としてのリクエストです。

それから、その中でも主要事業がつけられている橋梁の長寿命化の部分ですね。これなのですけれども、ここだけに限らないのですが、何回か申し上げているとおり、事業間で何かこう連動していると言いますか、先ほどの例えば橋梁の話ですと、4-1-3の橋梁の強靱化とこれは、ほぼ同義に近くなってくるよなと思うのですよね。

どうしても施策とかそういうものを整理するときにつり状で整理していくと、これも先ほど言ったように、この事業とこの事業は別、みたいな整理になるのですけれども、実際にはそれぞれが兼ねたりあるいは連携したりして、より効果を上げるということを積極的にねらっていないといけません。いわゆる縦割りでこの事業はこれだけ見てここだけで実現するだけだと、効果も、それから費用の面でも非効率になってしまうと思いますので、この中の書きぶりをどうあるか検討していただきたいのですけど。

私としては、何とかの主要事業とか何とかの施策、ほかの施策とも連動するが、というような参照するような書き方をして、事業間のつながりみたいなものは意識して書き込んだほうがいいのではないかなと思うところがあります。計画間のつながりもですし、事業間のつながりもですね。そうすることで、これとこれは1つやるのだけれども2つのねらいでやるのだな、ということが見る側にも見えますし、それから多分事業を行う側の方々にも意識する機会になるのではないかなと思いますので、そういった書きぶりを、今ここでもやりましたけれども、検討いただきたいような気がしています。

それから4-6-4の空家等対策の推進が主要事業に位置付けられています。これはあえてここで事務局にぜひお考えを伺っておきたいのですけれども、主要事業にするほどの状況でしょうか、大田区は、ということをお聞きしたいのですけれども。

というのは、私が横浜市南部などにいると、中心からは遠いところになってくると大分空家がある状況も近くにありますが、それでも全国的に見るとマシなのですね。数字上は横浜市全体を見てもそんなに高いわけではないのですね。ただ地域の方が心配しているのは確かではあるのですけれども。

特に大田区ぐらいの立地にあると市場性が結構あるので、ちゃんと使う人が使う気になれば空家は売れるし使えるし、ただ一方でそうなのだけれども空家になっているというのは、また別の事情があるのだと思いますけれども。そういう事情がある中で、数としては多分そんなに比率は高くないのではないかなと思っていて。大田区が対策、主要事業というほどの状況なのだろうかとか、常々、そうなのかなと。全国的にはと、感じてしまうところがありますので、このように位置付けている理由とか考え方みたいなものは、これはあとで事務局から伺えればなと思います。

やる必要がないとは思っていないのですけど、これはむしろうまく空家を活用することで、地域の交流が促進されるとか、新たな動きができるようになるとか、あるいは特に調布地区のほうだと、結構大田区は地域の交流拠点の数が少ないところがあって、私も大岡山・洗足地区で色々やっていますけれども、そういう場所が少ないと思うところがあります。空家がそういうものの解決の1つの場所になりうる可能性がある場所であるのは事実なので、これが実際に進むといいなと思ってはいるのですが、大きな位置付けは少し疑問であります。あとでご回答ください。

というところを私は思っておりますが、今の点以外も含めて皆様いかがでしょうか。総合的にこの施策について。松山委員、お願いします。

◎松山委員

今の部会長のお話と共通的な部分があって、この4-6は、今映してもらっている主要事業の3つ以外、冒頭の一覧を見るといっぱい事業があるじゃないですか。まさに色々なもの、道路維持管理とか、なんて言うのですかね、定常業務とか、プロジェクト的なものではなくて当然やっ

ていけないといけないものというのが結構いっぱい入っていると。その中から主要事業でこの3つが挙がっているということは、そこにおいては特にきっと課題感が大きいからなのだろうというふうに推察しますと。

そのときに空家の問題はまさに言及されましたけど、例えばもう1個、自転車みたいなものが入っていますが、自転車というのはさっきの文脈で、交通環境を整えるという意味での自転車利用の促進みたいな話もあったのですが、ここであえて自転車対策みたいなものが主要事業で上がっているということは、自転車対策における何らかの大きな課題感があるから主要事業として挙げていらっしゃるということだと思うのですね。

で、それがこの活動のシステムの更新とかキャッシュレスとかということと整合がとれているのかどうかというのがよく見えなくて、わからないなという気がしました。放置自転車対策がもししたら課題なのかなと推察をしつつ、そうするとそもそものキャパの問題なのかが問題なのか、そのあたりが見えないと、これをあえて主要事業として挙げてこういう活動が正しいのであるみたいなどころが、理解が及びにくいのではないかなという気がしました、というところでございます。

◎中西部会長

ありがとうございます。私も同じで、自転車について言い忘れていましたが、やはり疑問を持っていて、この3ページ4-6で面白いと思うのが、施策の方向性に自転車等駐車場の効率的・効果的な整備という、これが事業のような書き方になっていて、一方で主要事業が自転車等利用総合対策の推進みたいな、何かこう、上下関係が逆転しているようにも見えるのですね、文言からすると。どちらかというと自転車等利用総合対策というのをやりますというのが主要な方向性で、その具体的事業の1つに駐輪場の効率的な整備、という順番で書かれているほうがよりしっくりくる気がするのですが、なぜ逆になっているのかというのは今見て疑問を改めて抱いたところではあります。

自転車には多分2つの側面がありますよね。プラスの面、今の時代だとちゃんと活用しましょうという話、先ほどのところで三木委員がおっしゃったのはプラスに使いましょうという話だと思うのですが。これはどちらかというと町中のマナーとか、溢れている問題とか、マイナスをどうしましょうという話と、両方あって。これはどちらかと言うとマイナスのほうに注目がいつているような気がするのですよね。どちらも大事だと思うので、そのあたりの整理がほしいという気がしましたね。三木委員、お願いします。

◎三木委員

今、部会長がおっしゃったとおりだと思うのですよ。結局何が不足しているのかなという、ほかの事業ともダブっている部分が記載されていないから、例えば、空家対策推進とかポンと出てきますけれども、なぜ、この空家そのものの件数が多いのかという、今、部会長から疑問がありましたけれども、結局これは安心・安全のまちづくりとも関連してくるわけですよ。まちの美化も当然関係してくるだろうし。

だから要するに、ほかの事業との関連性をどこかに入れていくと、ひょっとしたらこの主要事業がもっと違うものになるのかもしれない。それが無いから、こういうところにぽんと出てくるのかもしれないので、ほかの関連事業とこの事業がどう関連していますよというのが一緒に記載されて

いれば、これはこちらから、どの関連施策に向かっているのだなど、全体的なイメージとしてわかるので。部会長のおっしゃるとおりだと思いますね。

◎中西部会長

ありがとうございます。基本目標が4つあるので、ほかとの兼ね合いもあるのでぱっと変えられるものでもないかもしれませんが、やはり精神としてはツリーではない。たまたまここに位置付けられるのは、整理上そうなるのはある意味当たり前なのですが、ほかとの関係の中でここに置かれているよというのがわかるようにしたほうがよいですね。全体的にそうだなと思います。

プラス、なぜ自転車なのかというところが、どういうふうにやっていっているのかというのはこれだけ見るとわからないのですよ。そのあたりは説明を追加するなり、あるいは書きぶりを考えるなり、ということが必要なのかもしれませんが。一旦こちらで、では永井委員、お願いします。

◎永井委員

皆さんと同じく、放置自転車に関してなのですけれども、システムの更新及びコールセンターの導入、とさらっと書いてあります。コールセンターは問い合わせに対して答えるとかそういう意味だろうと思うのですが、結構、業者に委託すると思うのですが、費用もかかるし、その費用対効果がどのくらいあるのかとか、感想ですけど。どの程度までやればいいのか、そこは色々な観点があると思うのですが、コールセンターまでいるのかなと、感想です。以上です。

◎中西部会長

ありがとうございます。これも、実際にこういうことをやろうというのを担当のところで検討されていて、それが位置付けられているのではないかなと推察をしますけれども、どういうねらいでやられているのかというのは、考えをどこかで説明されていることも必要かもしれないですし、ご検討いただきたい部分ではありますね。あとで、一括で返せるところは返していただければと思います。ほか、いかがでしょうか。えびさわ委員、お願いします。

◎えびさわ委員

1の橋梁に関してではなくて、2番3番の、今お話になっている空家と自転車に関して、これも啓蒙なのかなというところがあって。空家対策に関しては確かに部会長が言うようにそんなに件数がないよねというところ、とはいえ空家はありますよね。で、所有者の人たちがそれをほったらかしにしているからという言い方をしたら悪いのですが、相続の関係だったりとか、持ち主が誰だかわからなかったりとかということで、全く手つかずの状態で何ヶ月も何年も置いてありますよね。だからそれをしっかりとマッチングすることによって、利活用できるところは利活用していきましようというところの啓発、啓蒙活動で。

自転車に関しても、キャッシュレス、駐輪場ということに関しても、やはりここで啓発したいのは、多分撤去される自転車に関してなのかなと、私もこれは推察しているのですが、結局これは撤去しなくてはならないとなるとトラックで人員をかけて積んで、持っていったところで保管して、いつ取りに来るかかわからない自転車をずっと置いてあるわけですね。それで、取りに来る人たちがお金を払って取りに来るという形で、そこでお金が回収できれば問題ないのですが、そ

のままずっと誰も取りに来ない。比較にはならないと思いますけど、コンビニで買う傘と同じで、なくしたら、撤去されたら新しいものを買えばいいや的な感じの風潮になってきているのかなというところでの、黄色信号で啓発して行って、放置自転車をなくしましょうね、空家になるような家がある場合には皆しっかりその前に考えましょうね、という感じにするのであれば、ここに置くということに関してはある程度理解ができるかなというふうには思っています。

ただ、それを、ここから何か展開をさせていくことだけに重きを置くというふうに考えるのだと、これはまた少し違うのかなというふうな、数の部分に関しても、費用対効果に関してもということだと思いますので、その啓発啓蒙活動というところに重きを置くほうが、少し、様子を見るにはいいのかなと感じております。

◎中西部会長

ありがとうございます。どうでしょうか。一通りご意見をいただきましたが。一旦事務局からこの部分はなぜ主要事業なのかというところが少し引っかかってしまいましたので、こんな考え方でというようなご説明があればと思います。可能ですか。

◎齋藤部長

個別の件は各部からご説明しますけれども、大きな考え方としては都市基盤と住環境という施策のテーマですので、これに密接不可分でかつ区として大きな点、これを主要事業として設定させていただいております。

◎西山まちづくり推進部長

空家対策の推進ということでこちらにまとめておりますけれども、先ほどえびさわ委員からお話が出ましたとおり、今、この資料に書いていますのは、どちらかというと相談以外のものというのは改善指導とかいわゆる対症療法的な取組で、今までは区はそういったところを中心に、地域の方から陳情をいただいて、これはどうにもならん、では行政のほうで働きかけて、動かないのでやっという形なのですが、これを繰り返していたらとてもではないですけども手が回らない状況がございます。

国でも法改正があって、こういう空家になる前に早期の段階から働きかけができるような仕組みもできてきておりますので、まさに区としてはこういった、今、空家をお持ちの方で健全な方、ただこの先どうなるのかなということを考えていただけるような啓蒙、福祉の分野で老いじたくということで、ゆくゆく老いていく中で、相続する先もない、では空家をどうしようか、そういった考えをもらって取組もしておりますので、今空家対策は、そういったところと進めておりますので、年度計画の内容、事業概要の説明からするとその部分の記述が弱いというふうには思いましたので、今やっている取組、そういった方向で、どちらかというとこれまでの対症療法から予防的取組、啓蒙も含めた、そういった視点で動かしていきたいと思っておりますので、そのところは預からせていただいて、表現も工夫させていただければというふうには思っております。以上です。

◎中西部会長

よろしいですか。少し言葉が悪いのですが、一頃話題になったいわゆるごみ屋敷とか、そういつ

たところも含んでいるということによろしいですかね。

◎西山まちづくり推進部長

そうですね、一番はそういったような形で、いわゆるごみ屋敷的な、ごみ屋敷は空家という意味ではないという方々がいらっしゃるのですが、そういった方からの相談というのも環境対策の部門でもいただいておりますので、そういったところを含めて、ただ、件数については、必ずしもほかの自治体と比べて多いかというところではないのかなと思います。大田区の状況におきましても持家より賃貸の方が多いということもあります。

ただ一方で住宅マスタープランをまとめたときに、今、住宅の戸数が世帯数を4万ほど上回っているということで、これは将来的に空家ですとか、そういうところに陥るリスクもありますので、そういったことも踏まえながら、空家対策を総合的に考えていく必要があるなというふうに思っているところです。

◎中西部会長

わかりました。問題意識については、私としては理解ができたところだなと思っています。で、多分、空家という言葉が本当に空いている家というだけにとらえてしまうと多分違って、ここに最初に書いてある管理不全の部分ですね、外部不経済が発生して周辺の住環境に影響を及ぼすようなところも出てきたりするのではということ、それを予防的にということが問題意識だということがわかったのであれば、多少そのあたりが見えるように、書きぶりと言いますか、何なら主要事業のトップに、管理不全空家等というように「管理不全」を入れてしまってもいいなという気もしますし、大田区では特にそういうところが大事なのだということを書いていただいた上で位置付けていただくというのは結構かなというふうに私としては思います。

◎遠藤都市基盤整備部長

都市基盤整備部長の遠藤でございます。自転車については、今まで力を入れてやってきたのがまさに放置自転車対策でございます。今、令和5年度と比べても減ってはきているのです。ただ令和5年度が若干増えていますけれども、おそらく人流がまた戻ったからかなと思うのですけれども。放置自転車は傾向としては減ってきているという中で、今の課題として、放置自転車を撤去したときの対応だとか、あとは具体的に自転車の駐車場の整備は都市基盤整備部で進めているのですけれども、そういった今ある自転車駐車場の利用者の利便性向上というところが、今度大きく課題として挙がっておりますのでこういう形で書かせていただいたのですが、その辺の「なんで」というところはわかりづらいところがあるかなと思いますので、書き方については検討させていただければと思います。以上です。

◎中西部会長

ありがとうございます。実際問題そういう駅前とか、空間の利用で自転車が色々なものの妨げになっているのが昔からあるのはわかるので、対策として取り組むのは非常にわかることです。

ただ、4-6-6の自転車等駐車場の効率的・効果的な整備で書いてあるけれども、主要事業は駐輪場をつくと書いていないので、施策の方向性と主要事業の乖離はあると思いますので、

これはやはり整合性を取るよう見直すべきではないかなというふうに思います。むしろ総合対策をやるというのが方向性そのものではないかという感じですね。

皆様、委員の方いかがでしょうか。ほかに事務局から何か今の議論に対して、よろしいですか。ありがとうございます。4-6については多岐にわたる事業がありますので、むしろ主要事業でないものをしっかり進めていただきたいということだなと思うのですが、よろしく願います。

◎中西部会長

4-7につきまして、世界と日本をつなぐ空港臨海部のまちづくりですね。2つありますが、これについて皆さんご意見をいただきたいのですが、多分同じ指摘があるだろうなと思っていて、拠点のところと同様に、ビジョンをつくっているのですね。私も、委員で入ってつくりましたが、それが全然触れられてなくて、突然こう、事業だけ挙がっているように見えてしまうということなので、これは結構区にとっては重要な地区として、実はかなり検討もしているし、重視している場所ゆえにこういうものができているということがわかるような説明が必要なのではないかなと思いますので、これまで言ってきたことがここに適用されるということで、そうしていただいたほうが良いと私としては思うところです。

ということを前提の上で皆さん、いかがでしょうか。なかなか言いにくいところかもしれませんが、逆にそういったものを抜きにして、空港周辺とかあるいは臨海部の工業地帯、もう少しこういうところに触れても良いのではないかということがもしあればと思いますがいかがですか。何かございますか。これもグランドビジョンに飛んでくださいと言っちゃっていいですかね。

これは多分そちらに色々書いてあるので、それを踏まえて、そこに書いてあることがここに抜き出される感じを私は受けていますので、あとでまた検討いただくことにいたしましょう。では4-7は一旦そういうことでよろしいですかね。ありがとうございます。

◎中西部会長

それでは4-8にいきたいと思います。4-8多彩で魅力ある公園・緑地づくりですね。これはかなり実は重要なパートかなと思いますが、皆様いかがでしょうか。

これ、さっきすでに話題が出ましたよね。例えば防災の観点とか、色々な観点で公園・緑地を位置付ける整備をやるということがここにも書いてあるのではないかと、施策間の連携を書くことが重要かなという気がいたします。委員からいかがですか。

私がもう1つ気になるのは、主要事業の最初の、今表示されているところで、パークマネジメントマスタープランというのは、やや唐突感があるのと、これは確か前回、どなたかの議員がカタカナだらけって言っていましたけど、その批判のトップに挙がっていたもので、パークマネジメントという言葉は、多分ここにいる人間とか、専門的な人間はもう馴染みが出てきているのですが、多分区民の方はわからない概念ですよ。公園は公園と思っていて、そこにPark-PFIとか新しい整備方法、新しい活用方法というのは、ここ10年ぐらいの話題ではあるものの、やはりそういうものは限られた管理者・業者側の人間の発想なので、これは多分言葉の説明というか、何をねらってこれをつくるのかという説明がないとわからないですよ、多分ね。区民の方がこれを見て何だそれはとってしまうと思いますので、片仮名のままでいいかもしれませんが、説明はあるといいかなと思います。

松山委員、お願いします。

◎松山委員

まさにそれと関係する話で、昨年度の審議会も含めて公園がめちゃくちゃ大事で、区民からすると一番の関心事だよねという話がずっと1年間あったかなと思っていて。実際問題、ほかの区の取組をいくつか見ている、公園を中心にしたまちづくりというものが、結構まちづくりの大上段のコンセプトとして打ち出すことが、区民満足度とか、あとはそれがひいてはその土地の価格とかも含めて、結構公園は重要だねということが、かなり市民権を、一区民一区民の実感としてもそうだし、どちらかという少し政策的な意義とか経済的な意義としても公園の重要性がすごく高まってきたかなと思うのですよね。

そういう意味で、今、部会長がおっしゃいました、パークマネジメントプランをつくるということは手段で、なぜつくるかという、公園にしっかり力を入れていく、我々大田区は、それによって区民の満足度とか、その土地の価値向上みたいなものを推進していくということをちゃんと謳った上で、それをしっかり計画に落とすという意味でプランをつくりますというような目的感をきちんと書いて、公園に力を入れていくんです、この計画においては、というのをもう少しわかりやすく言ってしまったほうが、区民からすると、あれだけ言って「公園」がたくさん挙がっていたけど、何かこう1個マスタープランをつくり、みたいになってしまったな、と見えてしまいかねない。実際問題中身は違うという理解をしていますけど、見えてしまいかねないかなという気はしました。

◎中西部会長

ありがとうございます。施策4-8に入ったけど、本当は大きいだけでも、割とほかと同じレベル感になってしまっている。大事な課題であるという感じを、まだもっと打ち出してもいいのではないかなという感じは受けますよね。

それから、同様の意味で、このパークマネジメントマスタープランというのが、これは施策で言うと、大規模公園・緑地のところに入っているのですけれどそれでいいのかなという感じもありますよね。むしろ大田区だと身近な公園の大事さみたいなものが結構アンケートで出ていましたよね。なので、このパークマネジメントというのは大きい公園をどうつくる、というときによく使われる言葉ではあるものの、大田区の場合には、むしろ身近な公園をしっかり整備して、魅力的にしていくという総合的なパークマネジメントみたいな発想のプランのほうがこの課題感に合う気はするので、どっちかというこの4-8-1と4-8-2の両方に跨る話のようにも思えるのですよね。これもツリー状になるとここになるのかもしれませんが。

だから、4-8-1が大規模公園・緑地の魅力向上になっているのですが、もしかしたらここに、区内の公園・緑地全般の総合的な魅力向上みたいなことがあって、大規模と身近なもの、みたいな。規模感で分かれてしまっているように見えるのですが、それ以前に全体の、区全体の方向性みたいなものがあっていいのかなと改めて感じました。

今からこの4-8-1とか4-8-2とかをさらに分けることが可能かどうかわからないのですが、位置付的に少し、せつかく大事な課題なので、むしろちゃんと打ち出すという意味で考えていただきたいというふうに思います。ありがとうございます。では永井委員、お願いします。

◎永井委員

39ページの事業概要のところ、2行目に利用率が低い小規模公園においても、と書いてありますけれども、大規模も中規模もあるのですが、これを見ると小規模公園が何か利用率が悪いような感じに見えるのですが、決して何かそういう意味ではなくて、全部、大規模公園がいいかというところではなくて、身近にある小規模公園、小さいところで遊ぶというのも、公園としては色々な機能があるので。だから、利用率が低い小規模とあって、小規模公園が悪みみたいな感じだけど、そうではなくて、小規模公園も使いやすかったら遊びに来るだろうし、大規模公園だって広過ぎて逆に遊びにくいとかそういうのもあったりするんで、規模で小規模が悪いみたいなそういうのではないような感じがします。以上です。

◎中西部会長

これは多分意図としては、そういうことよりはもっと使ってもらいたいという気持ちの表れなのだろうというふうには思うので、書きぶりの問題と、あとむしろ小規模公園の積極的意義みたいなものの観点から書いてもらうほうがいかなと私も思いますね。むしろ、小規模公園は大事ですよ。えびさわ委員、お願いします。

◎えびさわ委員

今、1番でというところでの横文字パークマネジメントマスタープランというところの部分で、大規模公園という部分で括るわけではないにしても、大規模公園の色が強いものなのかなと。色々なことを落とし込めるとするのは多分大規模公園だというふうに思うので。今永井さんが言ったように、小規模公園が別に悪ではなくて、小規模公園の使い方というところで前の全体会でもお話したのですが、小さい公園に色々な機能を押し込むと結果使いづらい公園になる。かといって何も置かないと、何なのだろうというふうになってくると思うので、公園のある場所、面積によって、そういう特色を持たせるという言葉があるのであれば、ここは、高齢者の人たちが健康体操できるような公園、ここは未就学児が安心して遊べるような公園、ここは子どもたちがボール遊びできる公園みたいな感じで分けていくほうが、私は公園としてのあり方としてはいいのではないかなと思っているのですよ。

ある程度の大きさになると、鳥かごのようなネットがあってボール遊びができるようなところと、子どもたちが遊ぶグラウンドみたいになっているところと、遊具と、というので混在していてもいいと思うのですが、小規模であればあるほど、使い方を限定的という形にすると、それ以外の人は使ってはいけないのかというふうな取り決めになってしまうとあれなのですから、でも、この公園の意味合いはこんな公園ですよというような、それこそパークマネジメントなのかなという感じがしているので。大きさ、場所、あと、需要と供給のバランスも見ながら、というところでの考え方をまとめていただけたら、色々な公園ができてきて特色が持たせられるのかなというふうに感じています。

◎中西部会長

ありがとうございます。規模だけではなくて公園の個性とか魅力とかをそれぞれちゃんと考えてということですよ。では三木委員お願いします。

◎三木委員

今のえびさわ委員の話と重複すると思うのです。特に今回、基本構想をつくる時に色々アンケートを取ってやった中で、公園という声が一番多かったし、また子どもたちの希望も公園、これが大きな比率を占めていたと。そこで言っている公園というのは、今お話があったように、大規模な公園を言っているわけでも何でもないので。自分のところの身近な公園。これをもう少し使い勝手のいいものにしてもらいたいと、遊べる公園にしてもらいたいというところを多分アンケートの中でも言っていると思いますので。

今、大田区の中で、小規模公園というのが結構いっぱいあるのですけれども、これはどれもこれも皆同じで、今言われたように、同じような様式になっていると。ここの公園はこういうところだという特色があって本当はいいと思うのですよ。そこのところをもう少し大きく打ち出すような形で子どもたちなり、子どもたちだけではなくお年寄りがちょっと休むところで、例えば子どもたちがボール遊びをしたら危ないです。お年寄りの方たちが安心して休めるような、またそういう一つ一つの公園、これがやっぱりどうあるべきか。地域としての、ここの地域はこういう公園が必要だよねというのをつくっていくことは、区の方向性ではないかなというふうに思います。

大規模公園とかそういうことはあまり区民は意識していないのですよ。または使うにしても、自分のところから遠いとか、使い勝手が悪いとかそういうのもあるのでね。公園は身近なところがやはり中心になりますので。大規模公園については大田区のパークマネジメントのほうにお任せするということですね、以上です。

◎中西部会長

それについて若干私思うところがありまして。大田区全体を見渡すことも結構多いのですが、そうすると、大田区の大規模な緑地みたいなものという、例えば臨海部の、海の向こう側にあるというイメージというようなものであるのは確か。区民に近いところに大きい公園というのがどうしても少ないのですが、今からつくり出すというのは、相当難しいことだなとは思いますが。そういう意味ではここで言う大規模公園はどこのことなのだというのはこれだけだと見えないというのがありますよね。

一方で洗足池は私も今、東京科学大学になったところの近くで色々活動している関係で、やはり近いと、その地域の方々はものすごく洗足池を軸に思い入れを持っていらっしゃるんで、その部分はここに書いてあるように、推進していただければなと思いますし、区民の方々も喜ぶのだらうなと思います。

あとは私が発言すると色々あるかもしれないのですが、空港臨海部のところの公園の話をどうするかといっても、ここに含まれるのかなという気はします。大規模公園は、区の考え方と、それからそれこそマネジメント、最近の取組はどういうものかというところをよく検討していただければなと思います。

私も少し思ったのが身近な公園の扱いですね、主要事業3で言うと、そこの整備をするときに手間をかけて整備してほしいなと思うのです。手間というのはお金をかけるという意味だけではなくて、時間をかけて地域の方々を巻き込んで、計画をつくってやっていただきたいと思うのです。私も地域活動している中で、どこそこの土木事務所みたいなところが、突然なんか年度末に

パッと掲示板整備をってしまったりすると、言ってくれればもっといいものができたのと思うことがあります、専門的な立場から。

あともう1つは、地域の方がつくるときに関わると、自分たちの公園という感じがものすごく高まるし、アイデアも出てくるし、そうするとつくったあとの、例えば掃除してくれる人たちが出やすくなるとか、そういったことがあるのですね。

あとは近隣の小学校とか、中学校とか幼稚園、保育園みたいな、こどもたちがワイワイとワークショップみたいなことをしながら、改善の方向性を練るとか、そういうことをやると、全然ものが違ってくるのではないかなと思いますし、そうするとえびさわ委員がおっしゃったような個性ある公園に近づくとと思いますし、愛着が湧きますよね。そういう意味での手間をかけて整備していただくことをやってほしいなというふうに思います。そうすると、地域のまちづくり的な活動というか意識が高まるのですよね。これはどうしてもハード整備の観点で書かれているのですけれども、コミュニティの醸成という意味でも重要な事業になると思います。三木委員、お願いします。

◎三木委員

今、部会長がおっしゃったように、地域を巻き込むことは非常に大事なことだと思うのです。特に小規模公園にしても中規模公園にしても、こどもたちが来て集まってくるということは当然、こどもたちが楽しく、声を出すわけですよ。そうすると、これ大田区だけではないのかもしれない、行政全般的にそうなのかもしれないのですけれども、例えばこういうことをやると近隣からうるさいという苦情が来てしまってできないのだと言って、その近隣の苦情を口実に、行政が止まってしまうと。1つの逃げ口上に使っている部分もあるのだよね。

そうではなくてこどもの声というのは騒音ではなくてそのまちの明るさなのだよというところをわかしてもらうにしても、やはりその地域を巻き込んで、例えば公園の計画をつくっていくというのは非常に重要な部分なので。そういう形で今後、小規模にしても中規模にしても大規模にしても、地域を巻き込んでつくっていく、考えていくということがやっぱり大事なことではないかなと思います。

◎中西部会長

あと、さらにそれに意義を付け加えて申し上げると、これからの時代、子育て世代をどう呼び込むかということほどこの自治体さんでもすごく重要な課題となっていて、大田区は非常に立地がいい反面、値段の問題で少し、川上・川下というと語弊がありますが、遠いところに行くとかということがありますが、その中で子育てしやすいまちというイメージがちゃんと打ち出せることはすごく大事で、それに引き寄せられてくる方々がいらっしゃるのですよね。公園というのはそれをきちんとやることで、遊ばせられる安心な場所があるし、何かこう、地域の子育てコミュニティがいい感じ、みたいな打ち出しができるとうごくいいことになるので、単に施設としての公園を整備するというだけではなくて、そこにはそういうすごく大田区全体にとっていい効果が期待できるものがあるのだという意識で、ここに書いていただくと。まずそのために手間をかけるのだというふうにしていただけるほうがいいかなと思います。では、三木委員。

◎三木委員

すみません、度々申し訳ないです。4-5にも絡んでくるのですけれども、例えば、この大規模公園、これから羽田のほうに大きな公園が今計画されているとか、色々な形で公園に人が集まるような形の公園も考えられていますけれども、そういう中で新空港線ができて色々便利になりますよと、大田区も。それで大田区はすぐに非常に住みやすいまちになりますよという形で、人を呼び込む力、これを公園も含めて大田区としてやっていこうという中で、交通の便が、例えば新空港線ができると、東西の交通の便が非常に使いやすくなってくる。例えば埼玉とかあっちからも人が羽田空港に来やすくなる。そうすると人の移動が、区内は別だけれども、他県からの移動が非常に便利になるということになると、大田区の地域が1つの単なる通過点になって人が留まらないまちになる可能性もあるわけですね。そういう中で、公園が1つ、人を呼び込む、特に大規模公園、これは人を呼び込むような、そういう公園になってもらいたいと思いますし、また他県から来る人が少なくともこういうものがあるよというような形で、公園を使ってもらえるようなことになればいいかな。

交通の便がよくなるというのは逆に、人がただ単に通っていきただけのまちになる可能性もあるのだよね。そこはやはり、こういう公園とか、魅力というものを大田区としてどう上げていくのかということを考えていかなければいけないのかなというふうに思っています。

◎中西部会長

ありがとうございます。パークマネジメントマスタープランにもものすごく重い期待がかかっているような気がしないでもないですが、マネジメントマスタープランとまた違う話なのかもしれませんが、いずれにせよ少し戦略的に、公園をきちんと考えていただきたいということだと思います。それを打ち出してもらおうということをご検討くださいという感じですかね。

ほかにこの課題についてどうでしょうか。一旦事務局から何か今までの議論で、ご回答というか、ありますか。

◎齋藤部長

まずパークマネジメントという言葉が片仮名ということでね、非常にわかりづらいと親会の方でも言われていますが、これについては、親会で申し上げたように用語集の中に入れるか、あるいはアスタリスクで下のほうで説明するとか、そういうことで対処したいと思っていますし、何らかの説明がないと伝わらないということになりますので、そこは考えたいと思います。

それから三木委員からご指摘のあった新空港線、単にそれだけではなくてということですが、区としては今、沿線まちづくりということをやっていることを進めていますので、鉄道を通すことだけが目的ということは決してないということでございます。

◎山田鉄道・都市づくり課長

鉄道・都市づくり課長山田でございます。

新空港線を通すだけで、三木委員の言っているようにほかの区、13号線ができたとき、新宿区、新宿3丁目が通過駅になってしまうということを言われていました。しかしながらできることによって地域の方を巻き込んで、よりよいまちにすることによって余計人が入ってくるということを、もう私どもも確認しておりますので、そのために今回沿線まちづくり構想というのを策定させていただ

きました。それを踏まえて、地域の皆様と一緒に下丸子や池上、洗足池を含めながら、平和島も含めながら、よりよいまちを一緒につくって行って、大田区に人が集まるようなまちづくりを一緒にやっていきたいと思っておりますので、引き続き一緒にご検討いただきたいと思いますと思っております。

◎中西部会長

ありがとうございます。委員の方からよろしいですか。

色々なご意見が出ましたので、もんでいただく材料がまたこの期に及んで出てきた気もしますが、ぜひご検討いただきたいなと思います。4-8についてはとりあえず以上でよろしいですかね。

◎中西部会長

最後になりますが、4-9水とみどりのネットワークでやすらげる環境づくりというところですが、これについて皆様、ご意見いかがでしょうか。これまた大きな話題ではあるのですが。これも、多分ほかのものに比べて、これは非常に場所というかスケール感、レベル感も大きいので、なかなか、意見を申し上げにくい部分もあるかなと思うのですけれども。低炭素とかそういったところが少しほかのジャンル、基本目標3でしたっけ、そちらへ移ったことで、逆に水とみどりという、一番シンプルなものがここに残ったというところなので、これについてご意見いただければと思います。

個人的に、この中に入る話だけではないのですけれども、大田区全体の水とみどりはそう手厚くないというあれですけれども、川沿いとか海沿いのほうにたくさんあって、なかなか市街地の中にうまくまぎり込んでいるのが見えにくい部分があるという気がします。

それから、呑川の水質浄化対策と書いてあって、これは私が呑川に近いところで活動していますのでいい話だなと思いつつ、水質浄化だけだともったいないという気がするのですね。でもこれは4-9-3の水質浄化に入っているものでいいのですけれども。というのは、何のために水質浄化するかと言うと、1つには、やはり環境対策であると同時に、そこに人々が接しても問題ないような衛生状態をつくるということも大事なのだらうと思うのですね。なので、親水空間をつくり出すというのは一昔前の言葉ではあるのですけれども、やっぱり普遍的に結構重要なというか、有効な手段でもあると思いますので、一般的な水質浄化に加えて、それが区民に水を近づけるようなしつらえをセットで考えていただけるようになるというふうには思うところですね。

今の書きぶりはどうなっているのかな。散策路の整備、呑川の水質浄化、これは割と端的に水質浄化すると書いてあるのですね。大きな括りではそこに属すると思うのですが、その前の散策路の整備みたいなものとセットになって行われると、よりよいかないというふうには思うところですね。これもだから施策間で連携というか、うまく相乗効果をねらってやってほしいということになるかと思えます。他の皆様いかがでしょうか。

あとこれ1つ質問していいですかね。4-9-1の事業で、主要ではないのですけれども、大田区緑の基本計画グリーンプランおたの推進と書いてあって、ここだけ何かプランが特出しされている感じもある。ほかではあまり分野別のプランに触れていないのですけれども、ここでは、緑の基本計画が出てきていると。何かそこだけ出てくると、ほかでも都市マスの推進とか何とかの推進とかと書いてもらってもいいような気がしてしまうのですが、ここだけ書いてあるというのは、どういう事業をやるイメージですか。わたくしから質問として伺ってもよろしいですか。お願いします。

◎西山まちづくり推進部長

そうですね、確かに、ほかの計画とのバランスを考えると、この表記ですとわかりにくい部分があるかと思うのですが、特にこの中でグリーンプラン、昨今改定した中で2つありまして、この1個上にありますグリーンインフラという、こういった取組が一つと。

あとみどりの基金というものを、仮称ですね、こういったものを組み立てながら重点施策と位置付けて、緑のまちづくりを推進していこうということで、それをひっくるめて緑の基本計画グリーンプランおたの推進と書いていますので、そのところ、表現を工夫するなりしていくことも必要かなと今、ご質問を受けて感じたところでございます。ほかとの書きぶりのバランス等々をあわせて考えることですね。

◎中西部会長

今後ろのほうで手が挙がっていました。大丈夫ですか。同じようなことだと。はい。

書くことが悪いということとは少し違うのですけれどね。多分ここによいことが書いてあって、それをやるということだろうと思うのだけれども、プランと書いてしまうと具体的な事業のイメージがかえって見えなくなるということだと、私としては思いましたので。すみません、質問も兼ねてしまいました。皆様いかがでしょうか。では永井委員、お願いします。

◎永井委員

川の整備ということで、大田区も大体小さい川はほとんど暗渠化されて、もう呑川ぐらいしかなのかな、という感じもするのですけど。その残された川を整備していくという、そういう感じなのですか。呑川はそれなりに大きいので残すか、暗渠化しないか。ほとんどの近くの川は暗渠化されているので、その辺の川の、川をどうするかという全体の話ですけれども、やはり残された大田区の呑川を綺麗にしてという、そういう感じですかね。感想です。

◎中西部会長

ただ、大岡山の話ばかりなのですけれども、暗渠化されていてもその地域の記憶みたいな形で、あそこは川だったねというのが延々残ったりすると、あとやはり水には入口と出口があって、出口が意外と湧き水みたいな感じで印象深かったりするところもあるのですよね。

そういった意味ではやっぱり4-8の公園づくりをやるときに、何か公園と水に関係するところが近かったら、一緒に連動させるとよりよいものが生まれるという気もしますので、個別に対象地を決めずに、優先順位が同じぐらいだったらそれぞれが近いところを優先するとか、そのような感じで決めていただくといい空間が生まれそうな気がいたしますので、4-8との連携で考えていただけるといいですね。では松山委員、お願いします。

◎松山委員

まさにその文脈で言ったときに、4-9の1個1個のもので何かコメントというのはなかなか難しいなと思いつながら考えていたのですけど、4-8と合わせて屋外空間みたいな、屋外環境みたいなものにとらえるときに、公園も含めてなののですけど、いわゆる存在することでの価値みたいなものとして、環境対策とか防災とかというそういう価値があって、人々が利用することによって、健康

増進とか、こどものスポーツとかという価値が生まれて、さらに最近で言うと波及効果として部会長も会頭でおっしゃったようなシビックプライド的な、地元の人々の愛着やコミュニティをつくるみたいな、そういう価値としての屋外環境みたいなものの効果が、実はすごく深いのだよということ。それを個別の施策として申し上げることは正直4-9でいうと知識を含めてないなと思ったのだけど、こういうことに対して力を入れていくということの、まちづくりとしての重要性みたいなものを、4-8とあわせて、区民の方にも理解をしていただいてという、一緒に取り組むというような、そういう見せ方みたいなことは結構大事なのではないかなとは思いました。

◎中西部会長

そうすると、このあとですけど、多分、コンセプト絵の中の描き方でそこを工夫してもらえばいいのかもしれないですね。意見を伺っていて、さっき、私が4-8で言った意見と同様に、こういった水とみどりを整備するときに、例えば散策路ですね、勝手にパッと行政が設計してつくってしまうのではなくて、地域を巻き込んで整理するというをやっていただくとういことですよね。改めて思いました。ありがとうございます。

いかがでしょうか。よろしいですかね。4-9についても一旦以上としますが、事務局から何かこれについてありますか。

◎齋藤部長

これについては大丈夫です。あと最初のほうに部会長からご質問いただいた下水道整備率について。

◎中西部会長

急遽調べていただいたようです。

◎中村都市基盤管理課長

都市基盤管理課長の中村でございます。先ほどの災害発生時のお話の中で出ていた話でございます。

避難所とか病院などの重要施設につながっている下水道の耐震化率ということで今調べているのですが、ほかの県もあわせて説明しますと、神奈川県が45%、千葉県が66%、埼玉県が31%、そして東京都が81%ということで、ほかと比べては進んでいるというところではございますが、現在、施工をやっているというところではあります。以上でございます。

◎中西部会長

区の数字は。

◎中村都市基盤管理課長

区の数字としては、東京都に確認したところ、非公表にさせてくれということだったのですみません。

◎中西部会長

なぜ非公表かと聞きたくなりますが、全体的な数字としてはしっかりしているというところですね。もちろん、実際に災害が起きると色々あるかもしれませんが、ただ使えるときにも、せっかく生きている下水道を使えない状況では問題なので、そこら辺の使い方のテクニックはきちんと訓練しておく必要があるということですかね。ありがとうございます。

ということで途中どうなるかと思いましたが、いい感じの進行で来ました。これで一旦9個の基本的な施策についてのご意見をいただきましたが、全体を通して言い忘れたこととか言っておきたいことがある方、いらっしゃいますか。

◎齋藤部長

施策4-7だけ、ご意見がなかったようなのですが、確かにこれはわかりづらいのですね。空港臨海部というようなことでございますし、それからHANEDA GLOBAL WINGSのまちづくりという表現がありますが、イノベーションシティとどう違うのかとか、そういった疑問の声も多々ございます。そういったことで、ここら辺の書きぶりとかも工夫しなければいけないかなというふうに感じたところでございまして、これ所管部はどうですか。

◎保下空港まちづくり本部長

親会でも議題にありましたように、やはり区民の皆さんにわかりやすいような表現を特記で書くなりして、さらに全体がわかりやすいような表現を取り入れていきたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。

◎中西部会長

ご質問だったわけではないのですが、私自身はこのビジョンをつくったときに関わったのでこうなった経緯が推察できるので言わなかったのですが、そういう意味ではしっかりそのビジョンがつけられていて、こういう方向性のためにこれを主要事業として位置付けているのだという説明を付け加えてもらえればいいのかなどは思っています。

あえて言うと、34ページになりますけれども、臨海部交通の拡充のところはさらっと書かれているのですね。この趣旨なのですけれども、臨海部交通というよりは、内陸部と臨海部の交通アクセスの向上のほうがどちらかというと重要なこと、重要というか検討事項かなというふうに思っています。実際活動もそれになっていますよね。だから臨海部交通の拡充というのが、臨海部の中の交通の拡充みたいにも読めるかなとは今見て思いましたので、そこはご検討いただくといいかなと思います。

この地域の検討をすると、いつも内陸部と遠い、接続しないということが議題に上がって、そこをどうするか、一朝一夕に改善しないのですけれども、考え続けて地道に改善することが必要だということだと思いますので、主要事業に位置付けられているのはいいことだと思いますので、事業名というか、そこだけ少しご検討いただければと思います。4-7についても少し追加しておきました。皆さんよろしいですかね。ありがとうございました。

・基本目標4のコンセプト(案)について

◎中西部会長

それではあともう1つは、基本目標4のコンセプト(案)についてということですね。これは絵の資料ですかね。これについてご意見をということだと思います。今、画面表示していただきたいと思います。これについてご意見をお願いしますということなのですから、皆様いかがでしょうか。なかなかこれだけ見ていると難しい気がするのですが。

◎松山委員

前提を質問したいと思っていて。目的とどこに載るものなのかみたいなことを正しく把握したくて、基本構想の中でも基本目標4を1枚にした全体像があったじゃないですか。あれはあれであって、これは何の単位のものに何の目的で載るものという前提で議論すればよいのでしょうか。

◎須田課長

まず、掲載場所についてですが、基本計画が冊子となった場合に、施策が順番に並んでいて、基本目標が1、2、3、4と並びます。基本目標1の最初のページに、扉絵みたいな形のページをつくらうと思っています。そこには基本構想で定める基本目標と、そこにそれを説明する文章の掲載をします。

今回それにプラスの内容として、施策が基本計画の中で定められておりますので、その施策の内容を加えた上で、基本目標の全体をイメージできるような絵を、施策の内容と一緒に示していくというのが趣旨になります。基本目標に入っている施策がすべてこの概念図でどういう関係性があるのかということを示したいというものでございます。

◎松山委員

一覧化することが目的なのですね。基本目標の色々な施策を打った上でめざしたい状態みたいな、基本目標が達成されたらどんな状態になるかというのがこれだと思っていたので。基本目標の結果としての状態がこれなのだ。それを実現するための施策がいっぱいありますと言って、その施策の全体像を一覧化したいのが目的なのですか。

例えば今日の議論だと、その施策が一覧化しているのだけど、それが連関をしているから、そこに相互の作用が発生してこの一覧でいいのだよという、なぜこの一覧であるかということに納得感を持ってもらいたいためなのか。そのあたり、目的がまだぼやっとしてしまっているような気がして、「いるのかなこれ」というようなところが入ってしまっていると感じるところは正直あります。

◎中西部会長

そうですね。多分、ものとしてできたときに、文字だけではなくてやわらかくしたいというのはイラスト化というか概念図にするときには重要なポイントではあるのですが、概念図にしたらわかりやすくなるかというところちょっと、というのはありますね。なので、いるのかいないのかということからというのはもちろんあると思いますが、つくると決めてがんばってつくるというのもプロセスとしては必要ですよ。

これがそれで表現できているかというのは一旦チェックが必要なのですが、今回の議論の中で、私自身も強く思いましたし、皆様のご指摘も、施策間で連携して、個別のツリーの端っこで、個別

に事業をやるのではないよと、それがちゃんと連携してこの目標が達成されるのだよという、その施策間の相互関係とか、あるいはちゃんと重なっていることをこっちは意識しているのだよ、ということを見せるためのものなのではないかなという気がしてきたのですね。

なので、そういう意味ではこれは、重なり具合が書いてあるのは、実はそういうことが意識されてこうなっているのかなという解釈ができるので、そこをより強調していただくというか、こことこの関係はもっと近いとか、そういう目で見直してもらいたいのかもかもしれないのですね。

◎えびさわ委員

厳しい言い方していいですか。厳しい言い方しますよ、すみません。

今松山委員が言ったように、これでしょというところ・部分と、円と、絵と文字と、というところで、色がついているのと、白黒と、というので、結構バラバラなのですよ。だから見づらい。重なっているものも、「交通」はバスのほうに円がかかかっていて電車にはかかかっていないけど、どうなのとか。下のほうで言うと、公園と水と緑は全く何もかぶっていないけど円はかぶっているよね、とかという、絵を落とし込むのにもちゃんと考えていかないと、せっかくこの3つの円が重なってということなのに、この絵が逆に逆に邪魔になってしまっているというか、しかも白黒だしね、これがカラーになっているわけではないので、で、文字の「活気」とか「安らぎ」とか「快適」とかというのはカラーで文字になっていて、とかというので見づらいかなど思うので、ここをちゃんと作り込まないと見た人から何が一緒になっていて何が連携してなくてということを勘違いされてしまうのではないかなというところがあると思うので。

施策が4-1から4-9まであるわけで、その部分をどういう形でくっつけていきますよ。これとこれはもう、それこそ密接な関係なのですよというつながり方をやるにはわかりづらいかなど思う。すみません、厳しい意見を言いますがもう少し考えたほうがいいのではないかなと思います。

◎中西部会長

ありがとうございます。逆にそういうことを考えるにも、何を言いたい図なのかということをしっかり考えておかないと、デザインが難しいということですよ。

プラス、この基本目標4だけの話ではなくて、1から3との関係もあるので、これは多分、どなたがデザイナーかわかりませんが相当頭を悩ませていただくといいかなと思います。

一方で、そういうことを意識しているのだよねというものとして。

◎えびさわ委員

シナリオが伝わってくれば。

◎三木委員

言わんとすることはわかるのですよね。

◎中西部会長

見た目的にも絵があるというのは大事ではあるので、そこはかなりがんばっていただきたいかなという感じですかね。ほか、いかがですか。永井委員、お願いします。

◎永井委員

これは数学的集合のようで、3つあって一番真ん中の重なったところが何だとか。一番、安全・安心がパーンとあるから、拠点も空港も全部、安全・安心の範疇なのかとか、でも全部が全部そういう目的ではないと思うのです。でもこの図だとまず何事も安全・安心が全部そのバックにあるというような感じを受けるので、そういう面でも少し違和感があります。

◎中西部会長

可能な限り論理的に考えて、でも論理性だけではない部分もあるのでという、すごくセンスが問われる部分で、それを突き詰めると、図にするのは難しいねという判断も実はあるのかもしれませんが、そこは先ほども言いましたように、基本目標1から4全体を見る中で考えていただく必要がありますね。よろしいですか。何か事務局からありますか。

◎齋藤部長

この絵をつくった理由については、とかくそういう文字ばかりになりがちなところに視覚で訴えたほうがイメージされやすいだろうということがございました。とはいえ、これをお示ししたときにかえって解釈にばらつきが出たりわかりにくくなったりということだと本末転倒になってしまいますので、今いただいた意見を踏まえながら再度調整させていただいて、また再提出させていただく機会をいただければ幸いです。ありがとうございます。

◎中西部会長

難しいですね、という話だと思いますが、ただそこは必要性和、それから表現できる内容を考えていただければと思います。皆さんもよろしいですか。ありがとうございます。

素晴らしいスケジュールぶりで進んでおりますが、それでは、これで様々、時間がかかりましたが、皆様からご意見をいただきましたので、それを適宜と言いますか、可能な限り反映していただきたいというふうに思います。

全体の総括というわけでもないのですが、全体の議論を振り返っておくと、今まで全体の議論とか、あるいは書面とはいえ第1回をやったこともあるので、大きな方向性でそれは全然違うよ、という話ではなかったとは思いますが。

ただ、行政ができること、それから区民にどうわかっていただくか、区民の努力をどうエンカレッジするかということとか、あるいは全体の施策のつながり、あるいは区の総合的な政策というときに個別の事業に分かれていくだけではなくて、連携してやるべきではないかという戦略的な話、そういうところに色々なご意見があったのかなというふうに私としては考えております。

なので、見せ方の工夫も相当必要かなと思いますけれども、一旦でき上がるものは非常に重要なものになりますのでね、もう一がんばりしていただいて、12月の親委員会と言いますか全体の会議にいいものがかかることを期待したいと私としては思います。

皆様からは、よろしいですか。では三木委員、お願いします。

◎三木委員

すみません、最後に何バカなことを言っているのだと思われるかもしれませんが、今回のこの事業目標の中で、啓蒙的な主要目的というのは結構あったのですけれども、これが年度ごとに落とし込んでいって事業計画などをつくっていったときに、評価というのは基本的なものではできるのですか。

◎中西部会長

成果というか事業評価とかですかね、行政評価、難しい問題だとは思いますがね。

◎松山委員

事業の単位とかによっては多分できます。ただ、方向性のところで啓蒙というような議論が出ましたけど、ああいうものは例えば防災アプリの利用者数や、マイ・タイムラインの作成数、そういった形で、個別単位では多分とれると思うのですよね。例えば公園のマスタープランみたいな、公園の重要性みたいなものを皆に浸透させていって、皆に大田区は公園を中心にがんばるといようなことがどれだけ浸透しているかとか、そういうふわっとしたものはあえて取りにいかないと難しいかなとか、レイヤーによって結構変わるのかなという気はしました。

◎中西部会長

私の経験でほかのところでは総合計画の評価をするときなんかだと、指標だけを見てはいけない、指標を取ることは大事なのですが、指標プラス色々な領域の現状がどうかというヒアリング調査をやるとか、あるいは質的な議論を交わすとか、要するに言葉はシンプルですけれども総合的な評価を最後はせざるを得ないということだと思います。それしかできないから、データは取らないとなると、それはまた違うので、データを取ることと併用が大事だと思います。そういう工夫も運用する上では大事かなと思いますので。ありがとうございます。むしろ重要なことを指摘いただいたと思います。ほかによろしいでしょうか。

そうしましたら長時間にわたりありがとうございました。これで議題を終了して、事務局にお返しいたします。

◎齋藤部長

中西部会長ありがとうございました。

それでは事務局から今後の予定についてご説明させていただきます。

3 今後の予定

◎須田課長

ありがとうございました。今後の予定についてご説明いたします。

ご案内のとおり第3回懇談会を12月12日木曜日の午前10時から正午、5階の会議室で行う予定でございます。こちらで本日いただいたご意見を踏まえた修正を加えた素案という形で、基本計画、実施計画ともにまとめたものをお示しさせていただきます。

その後、年末から年明けにかけてパブリックコメント、住民説明会と進んで、さらにまとめたものを年度内に決定してまいりたいと考えております。

今後の予定については以上でございます。

◎齋藤部長

それでは以上をもちまして第2回の基本目標4の専門部会を終了させていただきます。

委員の皆様、貴重なご意見ありがとうございました。

閉会

以上